

(案)

資料 1

(第 11 回検討会資料)

多摩区におけるソーシャルデザインセンター開設案

令和元(2019)年 月

多摩区役所

目 次

1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における検討……	●
2 多摩区を取り巻く状況……	●
3 多摩区におけるSDCの開設理念……	●
4 SDCの基本的機能と具体的な取組について……	●
5 開設場所……	●
6 SDCの運営と多摩区役所の立上げ支援について……	●
7 開設時期について……	●
資料編……	●

1 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における検討

多摩区役所では、平成 31(2019)年 3 月に市が策定した「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」(以下「基本的考え方」といいます。)における区域レベルの取組を推進するため、平成 30(2018)年度に多摩区で行われたコミュニティ施策に関する検討の流れを受けつつ、平成 31(2019)年 4 月に「これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会」(以下「検討会」といいます。)を設置しました。「基本的考え方」では、多様な主体の連携により、市民創発によって課題解決する区域レベルの新たなしくみとして、地域での様々な活動や価値を生み出し、社会変革(ソーシャルイノベーション)を生み出す基盤(プラットフォーム)となる「ソーシャルデザインセンター」(以下「SDC」といいます。)を創出することとし、その形態は7区横並びに同じものを設けるのではなく、区の独自性を踏まえて検討するものとされています。

そのため、検討会では、この取組に関心のある方や地域活動をしている方など、区ホームページや市政だよりで広く委員を募りました。会議は月2回開催することとし、その他に小グループでの打合せを行いながら、地域の課題、資源、人材等に関することや、SDCの開設、運営、具体的な取組内容について、「市民創発」や「市民主体の運営」といった視点を大切にして議論を重ねるとともに、検討の状況については区ホームページを通じて広く情報発信しました。

また、併行して、検討会に関連する事項を多摩区役所において効果的かつ機動的に推進するために、多摩区役所企画調整会議要綱に基づき、区役所内10部署で構成する「これからのコミュニティ施策の基本的考え方区域レベル取組検討部会」を設置し、各部署間における取組の情報共有や連携を行う体制を整備するほか、町内会・自治会や民生委員児童委員協議会、多摩区民活動・交流センター登録団体など、地域で活動する様々な団体等に対し、「基本的考え方」や多摩区での取組を周知するための出前説明を実施しました。

こうした取組を重ねながら、令和元(2019)年7月には開設案の中間とりまとめを行い、その内容について広く意見を伺うため、「SDCの開設に向けた多摩区フォーラム」(令和元(2019)年7月28日)を開催するとともに、インターネット等を通じた意見募集(令和元(2019)年7月28日~8月30日)も行い、多くの市民から多様な意見をいただきました。

その後、いただいた意見を検討会で共有しながら改めて議論を行い、それを踏まえて令和元年●月に開設案の最終とりまとめを行いました。

この開設案は、多摩区における望ましいSDCの骨格を示すものとして市民に周知していくとともに、この開設案に沿った市民主体のSDCの開設・運営を目指していきます。

2 多摩区を取り巻く状況

(1) 区の概況

多摩区は、多摩川によってできた沖積平野と多摩丘陵の丘陵地で形成され、都市部にとって貴重な「水と緑」に囲まれています。

区内には、市内を南北につなぐJR南武線や都心へ向かう小田急小田原線や京王相模原線が通り、交通の便がよく、区内在住者の約半数が都内に通勤しています。

また、「岡本太郎美術館」や「日本民家園」、「かわさき宙と緑の科学館」、「藤子・F・不二雄ミュージアム」などが立地する生田緑地や多摩川、専修・明治・日本女子の3大学

をはじめとする知的資源など魅力あふれる豊かな地域資源があります。

(2) 多摩区を取り巻く現状

ア 人口の動向

多摩区の総人口は、市内で最も早い令和 2(2020)年にピークを迎え、減少に転じる見込みです。また、今後高齢化も急速に進み、令和 7(2025)年には 65 歳以上の人口(老年人口)が 21%を超え超高齢社会に入り、令和 27(2045)年には約 3 人に 1 人が老年人口になることが見込まれています。

イ 世帯の人員・家族類型の動向

多摩区の一般世帯における一世帯当たり人員は、1.98 人と市内で最も少なく、単身世帯の割合は 48.7%と市内で最も高くなっています(平成 27 年国勢調査)。

ウ 要支援者・要介護者数の推移

要支援者・要介護者はともに増え続け、平成 30(2018)年 3 月時点では、老年人口のおおよそ 5.5 人に 1 人が要支援者・要介護者となっています。

エ 近所付き合いや手助けを頼める人の有無

平成 30 年度区民意識アンケートによると、区民の近所付き合いの程度は、約 3 人に 1 人が「あいさつをする程度」で、親しく話をする以上の人がいる人は 3 割弱となっています。また、困ったときに近所に手助けを頼める人がいないと答えた人は半数以上にのぼっています。

オ 地域活動への参加状況

平成 30 年度区民意識アンケートによると、地域のボランティア活動、サークル活動などを行っている人は、14.6%となっています。また、若い世代ほど活動を行っている人の割合は低く、18 歳~30 歳代では男女とも 5%未満となっています。

カ 安全・安心に対する区民意識

平成 30 年度区民意識アンケートでは、区役所が力を入れて取り組むべき施策として「災害時の対応などの危機管理」(41.9%)と「防犯対策」(32.0%)が最も高く、安全・安心に対する区民意識の高さが伺えます。

(3) 多摩区役所におけるコミュニティ施策に関連する既存施策

ア 地域包括ケアシステムの推進に向けた取組

「基本的考え方」は、「地域包括ケアシステム推進ビジョンの取組をコミュニティ施策の視点から支え、相互補完的に充実させる位置づけ」とされています。多摩区役所では、「多様な主体と多世代がつながる支え合いのまち多摩区」を目指して、区内の 5 つの地区社会福祉協議会の区割りを参考に、それぞれの地区の地域特性に応じた地域づくりを進めています。

イ 多摩区まちづくり協議会の取組

「基本的考え方」では、「まちづくり推進組織が果たしてきたこれまでの役割やその成果、そして抱える課題等を踏まえ、区ごとの状況に応じて、活動休止や廃止も視野に入れ、将来的なあり方について、関係者との丁寧な対話などを通じた整理・検討を行い、遅くとも SDC 立ち上げまでには結論を出していきます」として

います。

多摩区まちづくり協議会は、平成 12(2000)年に設置された多摩区まちづくり推進協議会の組織体制等を改正し、平成 20(2008)年に第 1 期の活動をスタートしてから、第 6 期 12 年目を迎えています。これまで、①まちの課題抽出とその解決、②中間支援的機能の拡充を 2 本柱の目標とし、①の取組として「たまサロン」の開催、多摩エコスタイルをはじめとする各種プロジェクト活動の実施、②の取組として「まちカツ!」、「多摩★まち Café」、「多摩★まち大学」を開催するなど、多様な活動や成果を生み出してきました。その一方で、活動が長期化する中で、30～40 代の若いメンバーの定着ができていない、メンバー全員が完全なボランティアであったことから活動の展開や広がりには限界がある、といった課題も挙げられてきています。

ウ 多摩区民活動・交流センター

多摩区における市民活動の自主的かつ自立的な発展と、市民活動団体の団体間交流の推進を図るための「活動と交流の場」として、多摩区総合庁舎 7 階と生田出張所に、会議室と印刷・作業スペースを備えた交流室を設置しています。平成 31(2019)年 4 月末現在、登録団体数は 175 団体となっています。運営は 13 団体による運営委員会が担っています。

エ 川崎市多摩区市民提案型協働事業（磨けば光る多摩事業）

多摩区の地域課題の解決や、地域特性を活かした魅力あるまちづくりの実現に向けて、団体が自主的、主体的に実施する事業提案を募集し、学識者等を含めた審査委員会で審査の上、選定された事業を提案した団体に委託しています。なお、一つの対象事業に係る委託料は 70 万円までとしています。

豊かな地域資源に恵まれている多摩区の特長や、今後の人口等の動向、区民意識アンケート調査結果、地域包括ケアシステムの取組の状況等を踏まえると、多摩区では次の視点によるまちづくりが求められています。

- 多様な地域資源や知的資源を活かした魅力あふれるまちづくり
- 多様な主体や多世代による地域特性に応じた支え合いのまちづくり
- 安全で安心して暮らせるまちづくり

また、今後の多摩区におけるコミュニティ施策の取組の推進に当たっては、関連する既存施策との連携やこれまでの成果、課題を踏まえた取組が求められています。

3 多摩区における SDC の開設理念

多摩区を取り巻く状況や検討会での議論等を踏まえ、多摩区における SDC の開設理念を設定しました。

多摩区の SDC は、市民創発による地域課題解決や社会変革を促すテーマ包括型の基盤（プラットフォーム）として開設します。

検討会では、SDC の開設理念を考える上で、始めに「こうなったらいいなと思う 10 年後の地域の姿」について、意見・アイデアを出し合いました。そこで挙げられた意見等から、地域資源や知的資源、人的資源が豊富な「多摩区の魅力」や、地域包括ケアシステムの取組

を踏まえた「多世代」・「多様な主体」・「つながり」・「支え合い」、持続可能な開発目標(SDGs)や今後の人口減少・高齢化の進展を見据えた「持続可能」といった、多くの意見等に共通するキーワードを抽出しました。また、子どもも含め誰もが分かりやすい理念として掲げるため、こうしたキーワードを「みんな」、「力を合わせて」などに置き換えるとともに、若い世代が戻ってきたくなるまち、健康長寿のまち、子どもの笑い声が聞こえるまち、他地域から引っ越して来たくなるまち、といった、ありたい地域の姿に関する意見等を「みんなが幸せなまち」としてまとめ、開設理念を次の内容としました。

みんなが認め合い力を合わせて、みんなが幸せなまちをつくる

多様な主体と多世代が支え合い、多様な資源を活用し、区民主体の持続可能なまちづくり

多摩区のSDCは、区の豊富な資源やパワーを最大限に活かし、また更に大きくしながら、地域の様々な活動に対してコーディネートや求められる支援等を行い、誰もが住みやすく、区外から来る人も含め、みんなが幸せになれるようなまちづくりを区民主体で進めます。そのためには、みんなが自分事として出来ることに取り組み、世代や立場、置かれた状況などお互いの違いを個性として認め合い、支え合うことが必要です。この考え方を多摩区におけるSDCの開設理念とします。

また、この理念に基づく活動を通じて、高齢者や障害者、子ども、子育て中の親などに加え、現時点で他者からのケアを必要としない人も含めた全ての地域住民を対象とする地域包括ケアシステムの取組について、「自助」、「互助」の活動を中心に補完的に充実させていくことを目指します。

～検討会での意見より～

○多摩区におけるSDCの理念（こうなったらいいと思う10年後の地域の姿）

- ・自ら必要な資源を獲得し、結果を出す、コミュニティ活動をする。 ・多摩区の魅力が共有される。
- ・多世代がつながり交流が盛んに ・SDGsを少しでも達成できるまち ・区民のパワーを活かし育てる。
- ・健康長寿のまち ・多様な主体と多世代による支え合いのまち ・仕事やスキルでつながるまち
- ・他地域から引っ越して来たくなるまち ・若い世代が戻ってきたくなるまち
- ・子どもの笑い声が聞こえるまち ・社会的マイノリティが安心して暮らせるまち 等

○SDCの理念をとりまとめるポイント

- ・市民主体の運営を目指すため、区民の言葉でまとめることが必要
- ・子どもなど誰が聞いても分かる言葉でまとめる
- ・若い人たちにとっても自分達の問題、自分達が主役と思えるようにする 等

～フォーラム等での意見より～

- ・多世代の交流があり元気なまちづくり ・こどもの幸せを第一に考える。
- ・新しいコミュニティをコーディネートする場所 ・人と情報が自然に集まる場
- ・既存組織で解決できない諸問題を解決する。 ・色々ありすぎるとSDCの概念がぼやけてしまう。
- ・中間とりまとめで掲げられた理念は、多摩区の独自性が見られない。
- ・トータルの方向性が見えにくい ・まちづくり協議会を発展させる視点が大切

4 SDCの基本的機能と具体的な取組について

「基本的考え方」では、SDCの基本的機能として考えられる機能が例示されています。この内容をベースに検討会で議論を重ね、多摩区におけるSDCが備えることが望まれる機能を次の9項目にまとめました。また、これらの機能を果たすための具体的な取組を検討しました。

(1) 多摩区における SDC が備えることが望まれる機能

①多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る

地域づくりの担い手や社会起業家が生まれ、地域での活動がしやすくなるような環境づくりや、多くの人が地域での活動に興味を持ち、面白いと思ってもらえるような環境づくりを SDC が主体的に企画・プロデュースして実施します。こうした取組を通じて、活動する人の夢の実現を様々な段階で積極的に支援し、豊かな地域社会を形成します。

②多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする

ヒト・モノ・カネといった地域活動をする上で必要なニーズに応じてきめ細やかに対応していくため、日頃から情報収集や地域、企業等との関係づくりに努め、必要とする人に必要とするモノ等を効果的にマッチングしていきます。

③地域課題の解決を目指した社会実験の展開

多摩区は、区内に 3 つの大学が立地し、知的資源・人的資源に恵まれた地域性があります。こうした大学や区内の企業等と地域の交流を一層促進しながら、双方の活性化につながる取組を進めるとともに、ひいては地域の課題解決につながるような社会実験等の取組を協働して展開していきます。また、必要に応じて近隣地域等とも連携していきます。

④地域活動への専門的支援

複雑・多様化する地域課題の解決に取り組む団体等に対して、的確・効果的な支援を行うために、専門家による助言や、知識・スキルを持つ人を発掘・募集し必要とする団体等に結びつける取組を行います。

⑤地域で人を育てる仕組みをつくる

高齢化の急速な進行や、地域課題の多様化等により、地域活動の担い手不足が懸念されています。多様な主体と多世代による支え合いのまちづくりを実践していくために、社会に貢献するという視点を持った人を、地域の中で育てる仕組みづくりを進めます。

⑥「まちのひろば」への支援

誰もが気軽に集える地域の居場所「まちのひろば」を、多様な地域資源を活用して新たに創出する活動に対して立上げ支援等を行います。また、既に地域に存在し、「まちのひろば」としての機能を果たしている様々な居場所（一例としてコミュニティカフェなど）について情報収集し、求められる支援（より多くの人に知ってもらうための広報、活動がより充実するような支援等）を行います。

⑦みんなに届く情報発信

チラシ、広報紙など従来の紙媒体での情報発信に加えて、SNS などインターネットを通じた多様な手法を活用するなど、より多くの人々が、より受け取りやすい形での情報発信を行います。また、本当に必要とする人に必要な情報を届けるための取組を行います。

⑧多摩区内の人と人とを結ぶ

区内で活動する団体同士の交流など、人々との顔が見える関係づくりを進めることで、活動の活性化や豊かな地域コミュニティの形成を目指します。

⑨多摩区の地域特性を活かした取組

多摩川や二ヶ領用水などの水辺環境、生田緑地の豊かな自然環境や文化・教育施設など、豊かな地域資源に恵まれた多摩区ならではの取組を展開します。また、多摩川沿い平

野部と多摩丘陵の丘陵地で、まちの成り立ちや地域の課題が大きく異なるといった、多摩区における地域の実情や特性に応じた取組を進めます。

(2) 基本的機能に基づく SDC の具体的な取組について

前述した 9 つの機能を踏まえ、検討会で具体的な取組のアイデア出しを行いました。

また、取組の内容に応じて、分かりやすくサービスメニューを提供していく視点から取組の分類・整理を行い「相談・活動支援」、「情報収集・発信」など、SDC が地域で活動する団体等への中間支援を行う活動に取り組むことを、明らかにしました。

さらに、「調査・研究・実験」など、SDC 自らも地域の課題解決の実践に向けた取組についても、状況に応じて取り組めるように整理しました。

SDC の運営組織に対しては、こうしたアイデアを踏まえながら、中間支援の活動に重きを置きつつ、具体的な取組の詳細を検討し、取り組んでいくように求めていきます。

取組の分類	具体的な取組内容の例
相談・活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ●地域で活動している団体等から事業企画を募集し、資金を助成する。(①) ●地域で活動している団体等を対象とした、ヒト・モノ・カネに関する相談窓口の開設やインターネットでの相談受付を行う。(②) ●ヒト、モノ、カネの提供者の情報収集を行い、マッチングやコーディネートするシステムをつくる(「あげます・くださいサイト」の運営、各団体が得意とする情報の発信、マッチングイベントの開催など)(②) ●専門的・技術的支援のできる地域人材(プロボノワーカーなど)バンクをつくり、各団体のからの依頼に応じて紹介する。(④) ●課題を抱えている町内会・自治会や市民活動団体等の相談に対して、有識者、専門家、大学等へ依頼し、助言・分析・支援を行う。(④) ●交流スペースの運営ノウハウに関するマニュアルを作成する。また、アドバイザーの派遣を行う。(⑥) ●地域交流に活用できるスペースの調査・情報収集・整理を行い、発信する。(⑥) ●各団体の広報・宣伝を支援する。有料でチラシ作成・配布やホームページ作成を請け負う。(⑦)
情報収集・発信	<ul style="list-style-type: none"> ●SNS を活用した情報発信や、多摩区に特化した情報ポータルサイトの構築・運営を行う。(⑦) ●必要とする人に必要な情報を届けるための方法を研究し実践する。(⑦)
調査・研究・実験・課題解決の実践	<ul style="list-style-type: none"> ●地域課題の掘り起こしや、ニーズ・シーズの調査を行い、優先的に取り組むべき課題に対し、住民・大学・企業によるプロジェクトチームをつくり、解決に向けて実働する(一例として、空き家の有効活用、商店街の活性化、買い物難民の解消など)。(③)
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ●様々なスキルを持つ人が、地域での活動を始めるきっかけとなるような講座やイベント、ワークショップを開催する。(①) ●年齢やライフステージに応じた、地域で活動するための人材養成塾の開講と運営(スキルアップトレーニングなど)(④) ●地域の中学校・高校と連携したボランティア活動の実施。大学と連携した地域活動へのインターンシップの導入(④)
ネットワーク構築・交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ●地域ごとに人材や団体の発掘調査を行う。また、地域ごとのネットワークづくりを推進する。こうした調査やネットワークづくりを区全体の活動ネットワークに結び付ける。(①) ●区民交流広場や地域での住民・企業・大学・団体等の交流イベントを開催する。(⑧) ●コミュニティカフェやこども食堂などテーマを持って活動する団体のネットワークづくりを行う。(⑧)

また、検討会等では、次のような取組のアイデアも挙げられました。

～検討会で出されたその他のアイデア～

- ①多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る
 - ・ネットワークづくりマニュアルを作り、販売する。
 - ・地域での担い手や地域での活動がしやすくなるように様々な世代に向けて魅力的な講座の実施を行う。
 - ・会議室などに利用できる、地域住民や団体が集まれる場所の確保と運営
 - ・各団体の活動情報の収集と提供 ・新たな活動の促進策の企画・立案
 - ・個人や団体向け、コワーキングスペースの提供 ・地域情報の検索システム構築と提供
- ②多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする
 - ・市民活動で働きたい人を募る。
 - ・これから活動を始め人や既に市民活動をしている方に向けて必要な資金援助の方法を知らせる。(かわさき市民しきん、社会福祉協議会や市民活動センター助成金等)
 - ・助成金対応 ・各団体が活動する上で必要とする設備の提供 ・団体活動を行う上での相談窓口の設置
 - ・行政や企業、大学とのディパッチ(振り分け)機能の提供 ・官・民間問わず資金提供団体との関係づくり
 - ・区民及び区内活動団体の立上げ支援として資金支援(助成融資、マイクロファイナンス、クラウドファンディング、基金・寄付、地元金融機関等)、人材支援、スキル・ジョブ型支援、活動への専門情報の支援体制を構築する。
 - ・既存団体と市民とを繋ぐイベントを開催する。-音楽系団体とミュージシャン、市民とを結び付ける音楽イベント
 - ・既存団体と既存団体とを繋ぐイベントを開催する。-〇〇系の既存団体を一堂に会する交流会イベント
- ③地域課題の解決を目指した社会実験の展開
 - ・クラウドファンディングや企業や地域での寄付を募る。 ・協力団体や人材を大学などから広く募る。
 - ・子どもの、子どもによる、子どものためのまちをイベントとして開催できるように学生や他地域で実施している大学関係者と連携して社会実験を展開する。 ・地域の困りごと受付窓口の運営
 - ・課題解決のためのタスクフォース(住民/企業/学識による短期集中型解決部隊)の運営
 - ・防災情報や独居宅向けの情報提供システム ・地域通貨/地域ポイントシステムの実証実験
 - ・町内会・自治会、地域ケア、医療・介護を連携させるシステム構築 ・コミュニティバス
 - ・新規事業実施に当たってのステージゲート(段階)審査の実施(有識者、起業家等)
 - ・地域課題の抽出、発掘、解決のための区民、活動団体と連携した実践活動
- ④地域活動への専門的支援
 - ・活動団体が抱えている課題を掘り起こし、課題解決につながる専門家とつなげる。
 - ・各個人・団体をスキルアップさせる仕組みの構築と運営 ・団体向けの士業(行政書士、司法書士、中小企業診断士、社会保険労務士、税理士等)専門サービスの提供 ・誰もが、スマートフォンなどのIT機器を使えるようになるための支援サービス ・スポーツ・文化・芸術・科学サークル等への指導者紹介等の支援 ・初めての人でもプロボノワーカーとして参加し易い1~3か月間のプロボノ活動イベントの開催(支援先団体の募集とプロボノワーカーを募集してチーム分け) ・専門家等の人材プール(人材募集シートのホームページ公開)
- ⑤地域で人を育てる仕組みをつくる
 - ・親と子の育児園。パパや共働き家庭の親子向けに定期的に土曜日に子育て講座を開催。子育てや地域活動についての学びの場とし、子育てを通して地域を担う人材育成を行う。
 - ・地域活動をしている人たちがスキルアップできる講座の開催 ・区民ファシリテーター養成講座
 - ・場づくりの方法を学び、ファシリテーターを養成し、対話の場を増やす。
 - ・市民自治についての講座の開催。SDC 運営メンバーのスキルアップと同時に区民活動の活性化を目指す。
 - ・まちで必要とされる人材のカテゴリー別講座を開催し、終了後は人材登録し団体等に斡旋・紹介する。
 - ・子ども向けプログラミング教室 ・社会貢献活動の紹介・イベント開催 ・社会的起業家育成
- ⑥「まちのひろば」への支援
 - ・場所を貸したい人と借りたい人のコーディネート ・空き家活用、再生プロジェクトの作成・実働
 - ・こども文化センター、いこいの家を区民が主体的に地域活動拠点として活用できるよう支援する。
 - ・こども文化センター、いこいの家の指定管理を担い、地域の区民と協働で運営する。
 - ・空きスペースの有効活用 ・地域連携室 ・既存施設の利用規定や、公園・図書館等の見直しにより市民協働の交流拠点としての実現を図る。
- ⑦みんなに届く情報発信
 - ・活動団体の情報の収集、整理、発信 ・活動団体の地域関係図の作成 ・区民が欲しい情報の調査・提供
 - ・情報インフラの整備・運営 ・回覧板・掲示版の有効活用 ・5G時代を迎え情報発信を強化する。
- ⑧多摩区内の人と人とを結ぶ
 - ・区民誰もが祝ってもらえる「みんなの誕生日会」を毎月開催。参加費はお茶代程度で記念撮影等を行う。プレゼントは企業などから寄付を募る。
 - ・生前葬事業として生前葬をプロデュースする。生きている間に何度でも。格安での遺影撮影、衣装レンタル、メイクアップ等を行う。衣装は各家庭に眠っているドレスやスーツを寄付してもらう。
 - ・他地区・他都市・他国との連携 ・コミュニティカフェ、こども食堂の運営 ・地域ネットワークの構築により、顔の見える関係づくりを実現する。 ・団体間の横断をさす手段を模索し、実践する。
- ⑨多摩区の地域特性を活かした取組
 - ・外遊び機会の少ない子どもたちのための外遊びスペースの確保と外遊び交流会の開催
 - ・生田緑地マネジメント会議、せせらぎ館、藤子・F・不二雄ミュージアム、岡本太郎美術館との連携スキーム構築と運営 ・専修・明治・日本女子大をコアとする大学、学生との連携スキーム構築と運営
 - ・観光協会との連携スキーム構築と運営 ・農産物(多摩川梨等)のブランディング(更なる特産品化の取組)
 - ・外国人労働者との連携スキーム構築と運営 ・多摩区の持つキャピタル資源(多摩川や生田緑地、藤子・F・不二雄ミュージアム、岡本太郎美術館、宙と緑の科学館、民家園、ニヶ領用水、枳形山など)と人の繋がりを活用し、「多世代が共生し、にぎわいと生きがいの健康長寿、区民の区民による区民主体のまちづくり」を実現する。

5 開設場所

「基本的考え方」では、SDC について、「区の独自性を踏まえて検討し、設置についてもできるところから進めていき、最終的には区ごとに1か所の設立を目指します」としており、設置場所について具体的な考え方は明示していません。一方で、SDC の形態については、「色々なテーマや規模ごとに複数のプラットフォームが併存することも考えられることから、その目的に合わせて対話の場づくり、機能、エリア、テーマ、主体等のあり方について検討していきます」としています。

平成 30(2018)年度に実施した「多摩区のコミュニティを考えるワークショップ」では、SDC の設置場所に関する意見として、駅前・平坦などみんなが行きやすいところ、向ヶ丘遊園跡地や専修大学サテライトキャンパス、区役所周辺といった意見から、SNS 等インターネットを活用し空間としての場所は不要といったものまで、幅広いアイデアが挙げられました。

また、検討会では、「基本的考え方」や多摩区の SDC に備えることが望まれる機能を踏まえ、開設場所の検討を行い、空き家や学校、多摩区民活動・交流センターの活用などといったアイデアが出されましたが、最終的に次の観点から、多摩区総合庁舎1階の「ふれあいショップせきれい」跡地に開設することが望ましいと結論付けられました。

- 交通利便性が高い
- いつでも誰でも来られる、様々な人が集まりやすい
- 事務処理を行うことを考慮し、恒常的に使える
- 開設には様々な準備が必要なので、早めに場所を抑えて検討すべき
- 区の庁舎だと具体的なサービスメニューを考える上で制限もあるかもしれないが、まずはスモールスタートで可能な範囲で取り組んでいくのがよい

多摩区総合庁舎は、小田急線向ヶ丘遊園駅から徒歩約5分、JR 南武線登戸駅から徒歩約10分で、両駅からは平坦な場所に位置しています。地下2階には109台分の駐車場があり車での来庁もできます。「多摩区役所前」バス停では、川崎市バス、小田急バスの各路線が運行するなど、交通利便性の高い場所にあります。

また、多摩区総合庁舎は、区役所のほか市民館・図書館、多摩区民活動・交流センター、レストランなど様々な施設があり、テーマ包括型の基盤（プラットフォーム）として SDC が様々な機関と緊密に連携しながら活動していくことや、多様な区民等が来庁することから SDC を知らない人にも認知してもらいやすいことを考慮しても、適した立地であるといえます。

さらに、「ふれあいショップせきれい」（平成 31(2019)年3月に閉店）の跡地は、区民サービス向上の観点から有効活用の検討を行うこととし、それまでの当面の期間は、区役所窓口混雑時の待合スペース等として暫定的に利用している状況です。

こうしたことから多摩区役所としては、検討会での意見を踏まえ、多摩区総合庁舎1階「ふれあいショップせきれい」跡地に SDC を開設することを目指し、**誰もが入りやすい場所として**、SDC に求められる機能を果たしていくための必要な施設整備を、運営する組織と協議しながら検討・実施していくこととします。

なお、検討会やフォーラムでは、将来的にはより利便性の高い場所、広い場所への移転も考えられる、サテライトがあってもよい、といった意見も出されましたので、開設した後、一定期間経過後に実施する評価・検証を踏まえ、民間施設への移転や建替え後の生田出張所の活用なども含め、望ましいあり方を検討していきます。

【参考】「ふれあいショップせきれい」跡地について

〒214-8570 多摩区登戸 1775-1

多摩区総合庁舎 1階 面積約 46.5 m²

平成 31 年(2019)3 月の閉店後は、区役所来客用の待合スペース等として暫定的に利用している。

せきれい跡地写真

～検討会、フォーラム等でのその他の意見～

- ・生田緑地や生田浄水場跡地を活用できないか
- ・最終的にはより広い場所、オープンな形
- ・商店街の中
- ・廃校などの遊休施設
- ・民間の店舗内

6 SDC の運営と多摩区役所の立上げ支援について

(1) SDC の運営組織について

「基本的考え方」では、SDC の運営について、「市民主体の運営を理想」としています。また、「立ち上げ段階において、ボランティア組織による持続的な運営は困難であると考えられることから、専門的な知識と技術を有する NPO 法人等による運営も考慮しながら、行政として必要な支援を行います」としています。

検討会やフォーラム等では、SDC の運営組織の選定等や望ましい組織形態に関して、様々な意見やアイデアが寄せられました。

運営組織の選定等に関しては、「既存の運営委託のような発想はやめて、新しい団体、NPO 法人、公益財団法人なりを作り運営するのがよい」、「検討会委員が何らかの形で携われる運営形態が望ましい」、「若者・子育て・シニア世代、ハンディキャップのある方など幅広い方で運営するとよい」、「まずは柔軟さを第一に考えるべき」、「会話や熟議を重ねてより良いものを練り上げていくとよい」という意見が出されました。一方で、「運営はやりたい人でなく、できる人が担う必要がある」、「市民主導で、収支も成り立つような自立した組織を目指すのであれば、ボランティアで活動している人材を無責任な立場で集めるのでなく、起業経験のあるような人が理事として自らの責任で事業計画を立案する必要がある」、「事業ごとにその分野に詳しく、志のある方が理事として推進すべき」、「起業アイデア、ビジネスプランのコンペを開いて、優秀な企画書を作った人に団体立上げを担ってもらうのがよい」、「運営団体を公募するのがよい」、「特定の人たちが優遇されるような形は避けるべき」といった意見も挙げられました。

こうした意見を考慮しながら、運営組織のパターンを整理すると次の 4 パターンが考えられます。

【SDC 運営組織の考えられるパターン】

- ①検討会委員を中心に新たに立ち上げる組織

平成31年4月に検討会を発足し、委員を公募した結果、区内において様々な分野で地域活動を行っている委員や現役世代の委員、学生など多様な活動をしている多世代の委員による検討会が組織されました。発足以降も公募を継続し、委員数を増員（令和元年10月27日時点で委員32名）しながら半年以上にわたり、SDCの望ましい開設案について議論を積み重ねてきました。そのため、本開設案の実現に向けて委員を中心に新たに立ち上げた組織に運営を担ってもらうことが考えられます。

②検討会委員以外でSDCの運営を目的に立ち上げる新たな組織

新たな運営組織については、検討会委員以外のメンバーで立ち上げることも考えられます。企業等も含め幅広い団体等に参画してもらい、自主・自立による主体的な運営を行うことや、本開設案の趣旨・内容について理解を得た上で運営を担ってもらうことが想定されます。

③任意に選定する既存の組織

新たな運営組織の立上げ以外に、一定の活動実績を有するNPO法人等の団体が、活動の中で培ったノウハウを活かしながら、自主・自立の運営を行うことが考えられます。個々の目的を持ち活動している特定の団体がテーマ包括型のプラットフォームとして他の様々な団体等を支援していくことになるため、本開設案の趣旨・内容について理解を得た上で運営を担ってもらうことが想定されます。

④公募で決定する組織

様々な団体等に運営への参画の門戸を開くため、一定の審査基準を設けて運営団体を公募するパターンが考えられます。③と同様、特定の活動をしている団体を選定する場合には、テーマ包括型のプラットフォームとして他の様々な団体等を支援していくこととなるため、本開設案の趣旨・内容について理解を得た上で運営を担ってもらうことが想定されます。

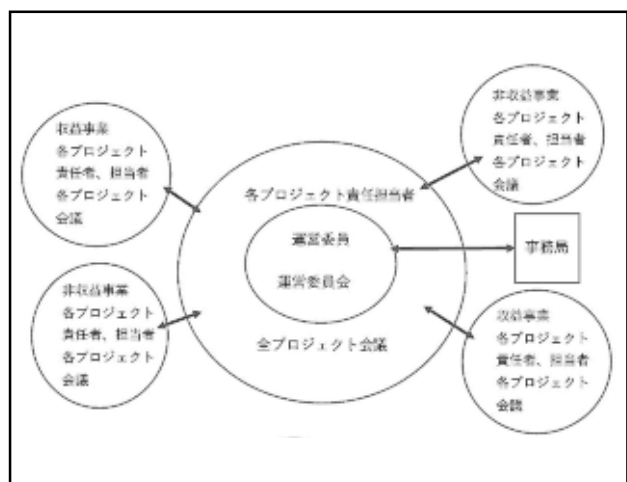
上記のいずれのパターンを採用するかを考えるに当たっては、SDCの望ましい運営組織の形態についても考慮する必要があります。

検討会では望ましい運営組織の形態に関して、図1、図2のようなアイデアが出されました。

これらのアイデアは、多摩区のSDCが「4 SDCの基本的機能と具体的な取組」で示した幅広い事業を行っていくために、事業ごとのセクションや責任者の必要性を示した内容となっています。その他にも、資料編●頁のような様々なアイデアが出されました。

こうしたアイデアやこれまでの検討会での意見、フォーラム等で寄せられた意見を勘案すると、SDCがテーマ包括型のプラットフォームとして地域の理解を得ながら多様な取組を効果的に展開していくためには、

図1 運営組織図に関する委員アイデア①



区民や区内で活動している方々を中心に、開かれた運営により、様々な特技を持つ人や団体が多様な形で関わり、各々の得意分野を持ち寄りながら、理念の達成に向けてお互い認め合い協力し、熟議を重ねて主体的により良い運営を常に目指していくことが最も望ましい運営組織の形態と考えられます。

こうした望ましい運営組織の形態についての考え方も踏まえ、多摩区役所としては、SDCの運営に関して次の視点を特に重視します。

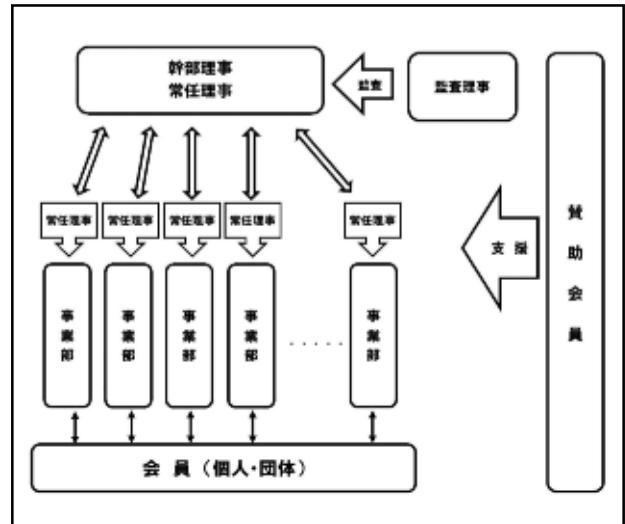
- 基本的考え方や本開設案を十分に踏まえた市民主体の運営を行うこと
- 様々な特技を持つ人や団体が多様な形で関わり、各々の得意分野を持ち寄りながら、市民創発により、理念達成に向けた取組を行うこと
- 地域の理解や信頼を得られる組織であること

前述した、SDC運営組織の4パターンに上記の視点を当てはめると、②の「検討会委員以外でSDCの運営を目的に立ち上げる新たな組織」については、各団体や企業に対する運営組織への参画の呼び掛けや、参画した団体間の連絡・調整等の事務局機能を多摩区役所が担う状況が想定され、市民主体の自主・自立の運営を目指す面では課題があると考えます。③の「任意に選定する既存の組織」は、一定の活動実績に基づく自主・自立の運営が期待できますが、元々個々の目的を持ち活動している団体のため、テーマ包括型のプラットフォームとして本開設案の実現を目指しながらSDCを効果的に運営していくに当たっては、その実効性に疑義が生じることも考えられます。また、特定の団体を選定することについて公平性・中立性の観点から合理的な理由も必要となります。こうしたことから、②、③のパターンは、上記の視点到そぐわないものと考えます。

④の公募で決定した運営組織については、様々な団体等に門戸を開くことができるほか、一定の審査基準を設けて応募団体の審査をすることで運営組織決定に当たっての透明性を確保することができます。一方で、③と同様、個々の目的を持ち活動をしている団体を選定する場合、テーマ包括型のプラットフォームとして本開設案の実現を目指しながらSDCを効果的に運営していくに当たっては、その実効性に疑義が生じることも考えられます。このパターンはSDCを自主・自立的に運営する団体を募集するものですが、契約の相手方を選定するためのプロポーザルとは異なり、多摩区役所が詳細な仕様等で運営に関する水準を設けることに馴染まない面があることや、明確な審査基準の設定方法について課題はあるものの、応募条件等によっては、運営ノウハウや実績、専門的知識を持った団体の応募も期待できます。

①の「検討会委員を中心に新たに立ち上げる組織」については、公募を行う場合と比較し、組織決定に当たっての公平性・透明性の確保の観点では劣りますが、市民主体で財源

図2 運営組織図に関する委員アイデア②



も含めて自主・自立的な運営を行っていくことを委員が十分に理解していること、様々な分野で活躍する多世代の委員で組織されており、各委員が得意とする分野での経験や人脈等を運営の様々な場面で活かしていくことが期待できること、新たに立ち上げる組織なのでSDCの運営に最も適した運営形態の検討や多様な人材の受入れに柔軟に対応しやすいこと、単一の既存組織に属するメンバーのみの組織構成とならないことで、中立性・公平性を確保しやすいことが優位性として考えられます。

こうしたことを総合的に勘案すると、④の公募により運営組織を決定することも様々なメリットがある有力な手法と考えますが、①の「検討会委員を中心に新たに立ち上げる組織」は、各委員の力を結集することで他のパターンに比べ多くの優位性があり、テーマ包括型のプラットフォームとして市民創発の取組を最も効果的に推進していく組織となることが期待できます。

そのため、多摩区役所としては、検討会委員を中心とする運営組織の立上げの動向等を踏まえながら、①のパターンでSDCの開設に向けて取り組むことが望ましい形態であると考えます。

(2) 運営組織に対する多摩区役所からの支援の考え方

SDCは、市民主体で自主財源による柔軟な運営をしていくことが理想ですが、立上げ時から財政面も含めて自立することは困難と考えられます。

そのため、多摩区役所による支援は、「基本的考え方」を十分に理解しながら、区民参加による検討会での議論を踏まえて作成した本開設案の実現を目指す組織と協議を進めていくこととします。

多摩区役所が立上げ支援を行うこととなった運営組織に対しては、協定を締結し、本開設案の実現に向けた運営を求めつつ、共に地域の課題解決を目指す協働のパートナーとして、お互いの強みを活かした取組をそれぞれ推進していくとともに、自主・自立の運営を基本としながらも、次の点について留意するよう求めています。

【SDCの運営に当たって求める留意点】

- 地域への周知を積極的に行い、地域の理解と信頼、協力を得ること
- 情報の共有と話し合いを大切にすること
- 公平、公正、中立を旨とし、区民の信頼に応えること
- 運営の透明性を確保すること
- 運営組織自らも学び、研鑽に励むこと
- 区民や団体の実際の声をよく聞き、課題の解決に向けて、真摯に取り組むこと
- 特定の団体や個人に対して利益の供与をしないこと
- 本開設案を踏まえた運営計画の策定や組織整備を行うこと
- 事業の検証を行い、発展に努めること
- 自主財源の確保に努めること（運営に係る補助金を交付する場合、補助額は漸減する。）
- 町内会・自治会やNPO法人など地域で活動する様々な団体や企業・大学との関係づくりに努め、連携を模索するとともに、組織自体の発展にも努めること

また、多摩区地区カルテの活用など、多摩区役所と SDC が互いに保有する地域の基礎情報や資源に関する情報、強みや課題、住民の声といった情報を共有しながら、効果的に取組を進めていきます。

(3) 評価・検証の実施

多摩区役所による支援は、予め期間を設定（令和 4(2022)年度まで）して行います。

本開設案における SDC の機能は多岐にわたるため、取組の優先順位等を考慮した運営計画を策定するなどした上で徐々に拡充していくことを想定しています。

支援期間内の取組については、評価・検証を行い、支援期間以降の SDC のあり方について、改めて模索していきます。

～検討会での意見より～

- ・区民主体の自立した組織を目指す必要がある。
- ・新たな任意団体又は NPO 法人、公益財団法人等をつくり運営するのがよい。
- ・最初から法人を立ち上げるのは困難なので、最初は任意団体でもよいのではないか。
- ・検討会委員が何らかの形で携われる運営形態が望ましい。SDC 開設後には取組の評価が必要となるが、その評価に参画する形も考えられる。
- ・運営協議会など、やろうという人でスタートする形もあるのではないか。
- ・SDC には運営はその活動に特化した組織が必要。既存の団体ではマンパワーの制約もあり、兼務では SDC の目的達成は難しい。
- ・法人格を持っていないとできないこともある。スモールスタートで実施していく事業に応じて法人化を進めていく必要がある。
- ・将来的に自主財源での運営を見据えていくのであれば、地域に密接した企業や NPO 法人などとコンソーシアムを組んで事業母体をつくらないと回らない。
- ・既存の中間支援に取り組んでいる団体のノウハウや成功事例、課題といった英知を吸収しながら運営していく必要がある。

～フォーラム等での意見より～

- ・運営について考える上で、①組織に求められる機能、②組織のあり方、③必要とされるスタッフの能力をまずは検討すべき。
- ・経営用語としてのスモールスタートとは、事業を始めるにあたって経営計画を綿密に行い、その結果として出てくる実行案の一つであり、「いいかげんな計画」ということではない。
- ・時間軸を入れた事業運営が必要

7 開設時期について

検討会での議論や、運営組織との調整を行った上で、令和元年度後半の SDC 開設を目指します。

資料編

1 これからのコミュニティ施策の基本的考え方における多摩区での取組の検討について

平成31年3月29日区長決裁

1 目的

これからのコミュニティ施策の基本的考え方における区域レベルの取組に関する多摩区での取組の検討、特にソーシャルデザインセンターの開設、運営等に係る次の事項に関し委員に意見を聴くことを目的として、これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会（以下「検討会」という。）を設置する。

- (1) 地域の課題、資源、人材等に関する情報
- (2) ソーシャルデザインセンターの開設、運営及び具体的な取組内容
- (3) その他必要な事項

2 委員

- (1) 検討会の委員は、地域の課題、資源、人材等の地域活動に密接な関連を有する分野に関して実際に活動を行っている者又は知見を有する者とする。
- (2) 検討会の委員の就任、退任は、前項に定める者からの申し出による。

3 庶務

検討会の庶務は、多摩区役所まちづくり推進部企画課において処理する。

4 その他

- (1) 検討会の参加が難しい委員には、個別に意見を求めることができる。
- (2) 検討会の運営に関して必要な事項は、別に定める。

2 検討会委員名簿

1	有北 郁子	12	杉下 禄郎	23	初田 温子
2	井坂 資弘	13	杉野 晃平	24	藤原 優花
3	伊藤 直人	14	関 あや子	25	細谷 祥三
4	岡本 幹彦	15	武田 ひろ子	26	本多 正典
5	奥川 裕	16	田代 たかよし	27	間瀬 葉月
6	粕谷 充子	17	田中 恒輝	28	町田 浩子
7	加藤 寛理	18	田村 彩乃	29	安井 浩
8	金澤 徹	19	俵 隆典	30	山野辺 仁
9	児井 正臣	20	辻野 勝行	31	吉野 泰雄
10	小山 礼仁	21	橋本 健	32	依田 洋祐
11	近藤 佳長	22	橋本 宜明		

(五十音順・敬称略。第12回検討会時)

3 検討会の実施経過

検討会は、計 12 回開催しました。各回の結果概要は次のとおりです。

(1) 第 1 回検討会

日 時 平成 31 年 4 月 12 日 (金) 午後 7 時～9 時

会 場 多摩区役所 6 階 601 会議室

出席者 委員 19 人、区役所職員 3 名

議 題 検討会のルールについて

ソーシャルデザインセンターに係る参考事例について

結果の概要と出席者の主な意見

【検討会のルールについて】

- 司会役と進行役が同じだとまずいのでは。進行は誰が行うか。
- 2 回目以降は進行を輪番でやっていけばよいのではないか。
- 前回の会議録を全員に事前に送付をしてほしい。欠席者には当日配布された資料も送ってほしい。
- 5 分ほどでも前の振り返りをしっかりして皆が共通意識を持った上で進めてほしい。
- メール等で行われた質疑応答については、振り返りの時間の中で説明し、資料としても出してほしい。
- 質疑応答結果は、当日は結果の振り返り程度であればプロジェクタ投影でよいのではないか。
- 進め方は丁寧に、ゆっくり進めてほしい。
- テクニカルな面は行政に任せて、大きな流れや方向性、方針、運用などは委員で検討していけばよい。振り返りの部分も行政に任ず形で会議の最初にでも行えばよい。

【ソーシャルデザインセンターに係る参考事例について】

- 他都市のようにどこかの企業と話がついている、などということはあるのか。そうではなく、草の根でお金のところも自分たちで動いていく、ということになるのならハードルがかなり上がる。
- 助走期間は市からの補助があるとしても、何年後かには自主財源を稼ぐということではよいか。
- 基本理念について共有すべき。共有の仕方をきちんと決めるのがよい。
- 去年から様々なワークショップを行っているが、課題の認識はできていないと思う。
- 2 月 16 日ワークショップの内容が漠然としている、というのはその通りだと思うが、それをどうやって具体化するかが大事ではないのか。
- 先ほどから共通理解がされていない、という話があるが、それはここに集まっている人達が、お互いを信用していない、ということではないか。ソーシャルデザインセンターのイメージは皆がそれぞれ持っている。違いはあって当然。
- 皆の得意分野などを持ち寄って形にすれば、様々な人の困りごとなどにある程度対応できるのではないかと思う。
- 役所に案を求めるのはどうか。それをやってしまうとこの検討会の意味がないと思う。まずは自分たちでやっていかなければならない。
- 基本的考え方をしっかり読んだうえで参加しなくてはならないし、発言もしなくて

はならない。そうでないと行きつ戻りつで上のステップに上がっていかない。

○求められる機能の中に各区の特性に応じた機能というものもあるので、その具体的な議論を行うための資料は用意しておいてほしい。

◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。また、次回についてはテーマごとに分かれるのではなく、全体で進行することを確認した。

◎基本的考え方で示されている各機能に則り、具体的な検討を進めることを主眼とすることを確認した。

◎今後の検討会では、冒頭に前回の振り返りを行うことを確認した。

(2) 第2回検討会

日 時 平成31年4月21日(日) 午後2時～4時

会 場 多摩区役所6階601会議室

出席者 委員17人、区役所職員3名

議 題 ソーシャルデザインセンターの理念を共有する

具体的な取組内容—ありたい地域の実現に向けて—

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○検討会の位置付けについて確認した。

○第1回検討会の振り返りを行った。

○議論のルールについて、根拠と論拠に基づく主張を行うこと、全面合意でなくてもなるべく多くの面で合意することなどが確認された。

○3月の準備会での合意事項と第1回検討会の確認事項をベースとしてこれからの審議をスタートすることが確認された。

【ソーシャルデザインセンター（SDC）の理念を共有する】

○まず多摩区の課題は何かという話をして、その課題に対してどうしたらいいか話した方がいいのではないかと。

○多摩区の課題は、敢えて出さなくても分かっているのではないかと。

○この検討会では、実際にSDCを運営する人に対し、こういう課題があるからこれをやってください、と言うようにするために検討するのではないかと。

○スモールスタートで、これだけはやってほしいというものをいれて、SDCをやる人にきちんと押さえてもらえばよいのではないかと。

○理念を共有する前に、課題がたくさんあって、それを共有することで最終的には理念が出てくると思う。

○SDCを開設する検討会ではないのか。団体の課題の共有よりも、SDCの議論をすべきではないかと。

○課題の共有はそんなに時間もかからないので、言語化で共有したほうがよいのではないかと。

○基本的考え方の議論は数年に渡り行われてきており、2月には多摩区のワークショップもあり、この検討会では具体的な内容について話すのではないかと。また2月の議論に戻るのか。

○ワークショップでの議論は行ってきたが、市民側から提案して合意してきている事

実はない。

- 団体の活動を行う中での課題出しを行った。
 - ・ 宣伝、資金調達、人材教育、団体同士の連携
 - ・ 場所
 - ・ 情報（他区や他地域では何をしているか）
 - ・ 人材不足
 - ・ つながり（子育て団体、他団体、世代間など）
 - ・ 地域活動の関心分野は、趣味や余暇を活かした活動が多い
 - ・ 資金や人材について、持っている人と必要としている人がつながっていない
 - 10年後の多摩区の理想の姿について意見出しを行った。
 - ・ バラバラがつながる
 - ・ 住みやすいまち
 - ・ 他地域から引っ越して来なくなるまち
 - ・ 健康長寿のまち
 - ・ 多様な主体と多世代がつがる支えあいのまち（多様な主体とは、例えば既存の活動団体、町会連合会、民生委員児童委員等）
 - この施策自体は、市民創発が原点にあり、市民が出会って議論する中で何を生み出すかが問われている施策である。私たちが自分で考え、自分の言葉で自分たちを動かすような多摩区をつくりましょうというベースがあってやること。一つ一つ確認して合意をもって文言にしていく必要がある。
 - SDC のイメージが統一されていない。まとまっていない中で具体的な方向性を出すのは早いか、間違っているのではないか。
 - 予算は大事で、そのための時期を考えなくてはならない。戻るのではなく、今出されていることに対して、どういう形でやってみるかを検討する必要がある。
- 【具体的な取組内容について】
- 方法論の説明は、検討項目で言うと運営に関するものと理解する。
 - 基本的機能⑤に、「地域の担い手や社会企業家などを育成する」とあるが、「発掘」もするというのでよいか。
 - 基本的機能⑥について、「まちのひろば」は、すでにあるコミュニティ機能を持ったひろばとこれから作るものを含むということよいか。
 - 基本的機能の9項目に対して、本会議中に抽出できた皆さんが困っている事柄を当てはめて、解決できるとことを確認していけば前に進むことができる。時間軸を見ながら進めないと、これまでの会議で決定された7月初旬の中間報告に到達できない。9項目の具体化について次回以降前向きに議論していきたい。
 - ◎ゴールにたどり着くまでの方法論として、何かをやる前にはなぜそれをやるのかと事後の評価システムを共有する必要があること、ノウハウを保全すること、チームワークを共有し自分の強みを生かすこと、結果についても共有する必要があることについて確認した。
 - ◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。
 - ◎理念(1つ)と基本的機能を踏まえた具体的な取組について次回までの宿題とする。

◎理念について次回議論する。何項目とするかは議論の中で決定する。

(3) 第3回検討会

日 時 令和元年5月10日(金) 午後7時～9時

会 場 多摩区役所6階601会議室

出席者 委員20人、区役所職員3名

議 題 今後のスケジュールについて

多摩区におけるソーシャルデザインセンターの理念について

ソーシャルデザインセンターの具体的な取組内容について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第2回検討会の振り返りを行った。

【今後のスケジュールについて】

○資料2により今後のスケジュールを確認した。

【多摩区におけるソーシャルデザインセンター(SDC)の理念について】

○資料3により、これまでに出された理念に関する意見を共有し、2人1組で絞り込みを行った結果、次の結果となった。

→得票数7票：2、8番、得票数6票：5、7番、得票数5票：6、10、14番

○16項目から7つに絞り込んだ経過をしっかりと記録で残してほしい。

○絞り込みに当たり、似たような文言が入っている文章をまとめるとよいと思う。

○理念は、一つの文章にするのは難しいので、3つから5つくらいの項目にまとめられればよいと思う。

○得票の一番多かった2番と8番について、多様な主体には町内会・自治会、社会福祉協議会など様々あるが、そうした主体と多世代がつながるということでは、一つにまとめられるのではないか。

○多世代がつながる、交流が盛んになる、住みやすいまちになるということが出ているが、これらは我々がしたいことが中心にあるように聞こえる。この利益を享受するのは市民であり、それが見えるように落とし込んでいった方がよいと思う。

○得票数は少ないが、残した方がよいものはあるか。

→12、13、16番について残した方がよいという意見があげられた。

○異なるレベルが入っているものの中から選ぶのはどうなのか。

○作業グループを作り、出された意見を踏まえ、次回の会議までに検討するというところでどうか。

→立候補により作業グループに入る委員を決定した。

【SDCの具体的な取組内容について】

○資料3は、1～43番までであるが、37～43番は組織論や規約に係る内容なので、まずは36番までの中から検討したい。

○初めに1～36番を基本的機能の9つの機能に分類するやり方が適当ではないか。

○基本的機能と具体的な取組についての意見の紐づけは、この会議の中で話し合いながら進めたい。

→出席委員を4グループに分け、1～36番の取組を9つの基本的機能に紐づける作業を行った。結果は次のとおり（丸数字は基本的機能）。

・1番：①⑤、2番：②⑦、3番：⑨、4番：③⑨、5番：②、6番：⑤、7番：②⑥、8番：①②⑥、9番：①②④⑦、10番：⑤、11番：⑦、12番：⑧、13番：①⑨、14番：①、15番：③④、16番：②⑥、17番：⑦、18番：②、19番：①⑥、20番：⑤、21番：⑤、22番：⑧、23番：②、24番：①、25番：⑧、26番：④⑨、27番：②、28番：①～⑨、29番：③、30番：⑦⑧、31番：⑤⑧、32番：⑤、33番：①②、34番：⑥、35番：①～⑨、36番：①②③⑦⑧

- 16番はSDC自ら区の課題解決を行うと書いており、他は団体と団体をつなぐというもの。16番だけ異質と感じた。
- 基本的考え方で示されている9つの機能について役所が提示してくれているものは、それほどきれいに整理されているものではないと感じる。私たちの言葉で再構成していく必要がある。
- 市が示した9つの機能は想定されるものとして出されているもの。多摩区でも36個の意見が出される中で、区独自のものが出てきた。多摩区なりの機能を作っていくのが使命ではないか。
- 理念と機能とは別々にたたいてもんだ方が、つながり具合などが共有できるのではないかと感じた。
- 有志で理念の検討をする中で何らかの形が出てくると思うので、一定のものが出ても終わりにせず、機能も含めて皆で共有するためのたたき台を検討できればと思う。
- 課題出しばかりを行っているが課題はなくなる。10年後、20年後もその時の課題がある。今我々ができるのは、今活動している人たちの課題を吸い上げて多摩区としてどうしていこうということだと思う。
- 他人事のような思いつきの意見を発言される方が前は来ていた。SDCが出来た時に自分でやりたい、自分のところでやってもよいという、SDCの土台となるような人・団体に来てほしい。
- SDCの土台になるような団体がベースになるのであれば、こういう機能はできないのかといった、具体的な議論もできるのではないか。
- 最終的にボランティア組織をベースにするのであれば、手をあげる人がいて、その人が思いを語って、それに賛同するたちが集まって中心になってやらないと。
- SDCは元々区民がやるという前提で集まっているのではないのか。夢を形にしようという思いは一緒ではないのか。自分は皆を信じて参加している。
- 準備会よりもSDCができた後のところで動きたいという思いがある。早くどんどん進んで、どこと交渉していこうという方が楽しい。
- SDCは区民が中心となって作る、区民のための区民が行う活動の拠点になるようなものがこれからできる。基礎の部分は色々な方が、個人の考えをしっかりと話して、時間がかかってもしっかりとんで作る、その上に組織を立ち上げることによっていかないと。どこかの団体に任せましようとなった時に、きっとそういうものではなかったという不満が出てくるのではないのか。どういう組織にしていくかも皆で考えるべきではないか。

- それぞれの委員が参加した動機も発言も一番いい方に解釈して進めていくべきとの意見があり、一方ではこのメンバーで集まってもこうにしかならないのではという意見もある。矛盾しているようだが全員で話し合っただけで進めていかななくてはならない。
- ◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。
- ◎次回検討会におけるSDCの具体的な取組の検討については、グループ分けして検討することとし、分け方等については、司会進行の委員と相談し各委員に連絡する。
- ◎SDCのキャッチフレーズについて、次回検討会までの宿題とすることとした。

(4) 第4回検討会

日 時 令和元年5月26日(日) 午後2時～4時10分

会 場 多摩区役所11階1101会議室

出席者 委員21人、区役所職員3名

議 題 多摩区におけるソーシャルデザインセンターの理念について
 ソーシャルデザインセンターの具体的な取組内容について
 ソーシャルデザインセンターの開設場所のアイデアについて
 フォーラムの開催案について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第3回検討会の振り返りを行った。

【多摩区におけるソーシャルデザインセンター(SDC)の理念について】

- 資料1で示している理念は、5人の委員で議論して作成したたたき台。キャッチフレーズ的に「みんなが認め合い、力を合わせてみんなが幸せなまちをつくる」を出し、さらに補助的な説明を加えた。2つに分けたのは、誰が聞いても理解・イメージできる文章とし、具体的にどういうことをやっていくのかという概要を加える組み立てとしたため。
- 前回、理念について16の意見が出されたが、「多様な主体」、「多様な資源」などはこれだけだと分かりづらい。子どもでも分かるように、自分事として考えてもらえるように「多様な主体」を「みんな」とした。「つながる」という言葉も出ていたが、「つながりたくない人」「つながれない人」もいるので、「認め合い」とした。また、「住みやすいまち」という意見も出ていたが、住んでいる人以外の外から来る人にとっても良いまちにしていかななくてはならないので、「幸せのまち」とした。
- これまでの16の意見をまとめるとこうなるのではないか。最大公約数をとれば、ぼやけるのは仕方がない。
- この理念を今後、組織の目的、仕組み・仕掛けなどに具体的に落とし込んでいけるとよい。
- たたき台の「みんなが」がどこまでかかってくるかという解釈は人によって異なる。この検討会の議論の中で決まっていく。
- 「多様な主体」、「多世代」、「多様な資源」ということが大切にすべき点。これを皆さんにどう伝えるかというところから考えていくべき
- 理念の文章について、委員の意見を確認するため多数決を取った。

- ①「みんな」は冒頭のみ 『みんなが認め合い、力を合わせて幸せなまちをつくる』
→6人
- ②「みんな」を全部取る 『認め合い、力を合わせて幸せなまちをつくる』 →1人
- ③「みんな」を3つにする 『みんなが認め合い、みんなが力を合わせて、みんなが
幸せなまちをつくる』 →2人
- ④点の位置をずらす 『みんなが認め合い力を合わせて、みんなが幸せなまちをつく
る』 →10人
- ⑤原案どおり 『みんなが認め合い、力を合わせてみんなが幸せなまちをつくる』
→④が多数のため、未確認

○これまでの 16 の意見は記録に残しておいて、SDC が立ち上がった際に何らかの
文書表現にしていってくれればよいと思う。

【SDC の具体的な取組内容について】

○前回、基本的考え方の9つの機能に沿って具体的な取組で出された意見を分類した。
これを基に多摩区としてのSDCの機能について検討していきたい。
→出席委員を4グループに分け、多摩区のSDCの機能の検討を行い、結果を発表
した。

グループ1

・①③⑤⑦⑧について検討した。①は専門職によるコーディネートや区民に対しての
人材育成、団体対応をしてもらう。③の地域課題解決は早くできるものはやってほ
しい。10年先は外出できない人がタブレットやオンラインで関わっていけるように
してほしい。⑤は人材育成。⑦、⑧は今までの団体の壁を取ってほしい。連携がされ
ていない。⑧は新しい参加者を得る。

グループ2

・機能を自分達の言葉で表現するため、①～⑨の大テーマにつながる中テーマを選択
することにした。①③④⑥⑨について検討した。①は1、35番、③は4、26、29、
36番、④は9、35番、⑥は7、8、19、34番、⑦は2、9、17、30、36番

グループ3

・優先順位付けやそれを判断する基準について話をした。
・既存の市民団体で実施できるもの・やろうと思えばできるもの、SDC でなければで
きないものという分類の仕方があるのでは。SDC でなければできないものとして
は、③地域課題解決の社会実験のように新しい取組につながるもの、②の資金の助
成につながるような取組が考えられる。

グループ4

・具体的な検討に至らなかった。
・⑧について、ニーズは一体何か分かっているのかという疑問が出てきた。それを考
えていかなければならない。①～⑨全てに登録団体支援とあるが、SDC やその機
能との関係性はどうか、何を支援するのか。
・基本的考え方に書いてあることと、これまでに出た具体的な取組の意見を含めて、
今の段階でのSDCの取組内容案を大まかに作って、フォーラムで提示して参加者か
ら拾い上げてもらい確定していけばよいのではないか。

- 本当に困っている人の声を吸い上げられているのか分からない。フォーラムがその位置付けになると思う。多摩区は連携が薄い。連携をしながら全体でSDCを作っていくましようという形にしていくことが必要。
- 課題は出ているが、強みもあると思う。それが分かると課題の優先順位も付けていけるのではないか。
- スケジュールのこともあるので、前回と同じように何人かに集まってもらい原案づくりをしないと終わらない。
- 何の話をしたらいいのかよくわからなかった。どうやって自分たちの言葉でまとめるのかというのは大変なことで短時間ではできない。この内容はここでしっかりと時間を取ってやるべきだと思っていた。
- フォーラムでは、理念、具体的な取組内容などもはっきり示せるところまで持っていくのがよい。
- やり方が分からないという意見があったが、その現状が見えたのはよかった。今日話し合ってみて温度差があることも分かった。少人数でたたき台を検討するやり方がよいと思う。
→次回検討会までに希望する委員で原案作成することとし参加する委員を決定した。
- 【SDC開設場所のアイデアについて】
- 次回検討することとしたい。3月の準備会で区から状況の説明があった、区役所1階ふれあいショップせきれい跡地か、それ以外の適した場所がないか、次回までに考えてきてほしい。
- 【フォーラムの開催案について】
- 区から7月の多摩区フォーラムの開催案を資料3により説明した。
- 【SDCのキャッチフレーズについて】
- 今回議論した理念の文章と照らし合わせて、再度キャッチフレーズを考えることを次回検討会までの宿題とする。
- ◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。
- ◎上記のとおり、SDC開設場所のアイデア、キャッチフレーズの案について次回検討会までの宿題とした。

(5) 第5回検討会

日 時 令和元年6月14日(金) 午後7時～9時

会 場 多摩区役所11階1101会議室

出席者 委員22人、区役所職員3名

議 題 多摩区におけるソーシャルデザインセンターの機能・具体的な取組内容について
 ソーシャルデザインセンター開設場所・運営のアイデアについて
 中間とりまとめのイメージについて
 フォーラムの開催について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第4回検討会の振り返りを行った。

【多摩区におけるSDCの機能・具体的な取組内容について】

○資料1-1、資料1-2を用いて、小グループでの検討状況について説明

○資料1-2①に関して、コーディネーターは単純に芽を育てるだけでなく、多様な主体をつなげていこうという議論がある。4、5年前からコーディネーターは必要だと言われているのに、小さくみえるのはどうか。

○①のコーディネートと、②のマッチングは似通っているという意見があった。①はプロデュース機能に特化した方が分かりやすいのではという意見もでた。できればコーディネートの機能をプラスしておけばいいと思う。

○団体や人、企業、こういう人を育てていくということで議論している。プロデュース、コーディネートという単語では、多くの人に理解されることが難しいのではないか。SDCの理念として誰でもわかる話をしている。

○今までの議論を踏まえ「芽を育てる」を「土壌をつくる」としてはどうか。

○「土壌をつくる」はすべてに当てはまるのではないか。

○②のBだけ「SDCが」と入っているが、意味はあるか。

○「マッチング」を「つなぐ」としてはどうか。

◎「芽を育てる」を「土壌を創る」に変えることについてどうか。⇒賛成多数

◎②の「SDCが」、削除でよいか。⇒賛成多数

◎「マッチング」を「つなぐ」にかえるか。⇒意見が割れているので、そのままよいこととする。

【SDC開設場所・運営のアイデアについて】

○区役所7Fの区民活動センターの活用は考えられるか。

○空家の利用、学校、小中学校などの案はないのか。

○SDCの考え方からすると、今現在の小中学校でモノを売ったりすることはできるのか。空家などで今から契約してというのは大変であり、場所も人が集まる場所かという観点も大事。

○スモールスタートという観点、人の常駐場所、電話、パソコンなど、いろいろな準備が必要であることから、早めに場所を抑えて検討すべき。

◎せきれい跡地を希望することでよいか。⇒異議なし

○新たにスタートするということなので、既存の運営委託的な発想はやめて、新しい団体、NPO法人なり公益財団なりを作って、そこがSDCとしての機能を担うということがよい。

○最初から法人を立ち上げるというのは困難。最初はゆるい形もあるのではないか。そこで助成金を受ける、法人格の取得を目指すということで考えられないか。

○運営協議会などでスタートする形もあるのでは。やろうという人でとにかく始める、必要があれば法人化する。

○SDC自体が自立を基本的な目標として考えている組織。自分たちで資金を集め、働く人もボランティアではなく有料で回転できる組織を作るということを頭にいった上で、行政の支援を受けようという議論は後にした方がよい。

○資金の作り方については、メンバーでよく協議しないといけない。我々が何をやり

たいのか考えていかなければいけない。お金が集まれば何やってもいいというわけではない。

- 将来自主財源で回すという明確な目標があるのであれば、コンソーシアムを組んで事業母体を作らないと、回らないと思う。地場に密接に関係がある例えば小田急さんとか、地銀さんとかと、いくつかの NPO 法人さんとかでコンソーシアムを組んで財源をまず確保するということがないと、先に進まない。

【中間とりまとめのイメージについて】

(特に意見なし)

【フォーラムの開催について】

- 7月28日のフォーラムの時間配分はどのようになるのか。具体的な取組内容等、参加される方に理解してもらえるのか疑問がある。
- 多摩区取組などで20分、具体的な取組に絡めて話をお願いするゲストトークについて質疑応答含め40分、グループ討議は100分前後を予定している。事前申込を前提としている。
- 検討する内容は少人数で検討するべきだと思う。フォーラムで意見を伺えばよい。
- チラシのイラストがホテルのイラストのようだ。イメージが湧きにくいのではないか。SDC ができて何ができるかとかを書いた方がよいのでは。
- 内容が広すぎて、すごいものができると思われるのでは。現実的には何回も議論してこういう状況なので心配。
- チラシを打つときに、まずは時期が年度内という目標はありつつも、運営母体についても広く意見を募るといった表現があるのが今時点ではいいのではないか。
- 事業母体を募るところの話も、私たちはまだしていない。本当に区民に十分にSDCの情報が行きわたっていない。まずSDCとはなにか、こういうのができるよのだが、自分達はこういう風に関わりたいのか、意見を募集することがフォーラムと思う。
- フォーラムに来てほしいのは誰か。広くということであれば、必要としている人に届けられるように。

【SDCのキャッチフレーズについて】

- これからの議論もあるので、本日は目を通していただく程度とする。
- ◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。
- ◎23日(日)には中間報告の形の原案は出して議論いただく予定。したがって23日に資料として出せるよう少人数で事前議論を行うことを確認。手挙げによりメンバーを募り、日程調整を行う。

(6) 第6回検討会

日 時 令和元年6月23日(日) 午後2時～4時

会 場 多摩区役所6階601会議室

出席者 委員14人、区役所職員3名

議 題 多摩区におけるソーシャルデザインセンターの開設案(中間とりまとめ)について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第5回検討会の振り返りを行った。

【多摩区におけるソーシャルデザインセンター開設案（中間とりまとめ）について】

○第5回検討会で決定されたとおり、今回の検討会に先立ち小グループで具体的な取組について意見・アイデア出しを行った。資料1はその内容をまとめたもの。

○資料1の内容を踏まえ、資料2・中間とりまとめ（たたき台）を作成したので、本日はその中の2～6頁「4 SDCの基本的機能と具体的な取組について」を中心に合意形成したい。

○議論の進め方については、資料3のとおり、グループ討議でお願いしたい。

→出席委員を4グループに分け、中間とりまとめ（たたき台）の修正意見の検討を行い、結果を発表した。

グループ1 ※主に次の2項目を検討

(1) 多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る

(2) 多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする

・(1)の具体的な取組の例示については、次のとおり追加・修正をしたい。

○地域ごとに人材や団体の発掘調査を行う。

○地域ごとのネットワークづくりを推進する。

○上記の発掘調査とネットワークづくりを区全体の活動ネットワークに結びつける。

○活動の場の確保と運営を行う。

○地域で活動をしている団体等から事業企画を募集し、資金助成をする。

※他の項目は原案どおり

地域団体の発掘調査を行い、発掘した団体を地域ごと（かなり小さい単位）にネットワーク化することを一段階目とし、これを区に集約して全体のネットワークづくりにつなげていく。活動の場の確保と運営については、地域の中で活動の場に使えるところを発掘して情報共有やその場に関わっていくということ。

様々なスキルを持つ人たちを活用した講座やワークショップは、ネットワークづくりにつながるのではないかと。

・(2)の具体的な取組の例示について、「フードバンクの運営」は、SDCが直接実施するのではなく、情報を拡散する支援だと思っているので、外して「マッチング」に絞ってはどうか。

グループ2 ※主に次の2項目を検討

(3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開

(4) 地域活動への専門的支援

・総論としてはアグリーである。間にある各論については次回のフォーラムでの呼び水であろうということで個別の議論はしていない。大きな丸（太線）の内容について追加記載をした。

・(3)については、ニーズ、シーズ調査のようなものをフォーラムのタイミングで新たに募集してはどうか。

多摩区での活動にはなるが区民に限定しないで、小田急や近隣住民などと連携し、

広域連携といった視点が必要ではないか。特に防犯、防災については、多摩川流域の近接する都内の方々との交流が必要。

新規事業を募集していく中では、ステージゲート審査といった考えが必要。ステージゲート1と2で金額に差をつけるなど。ステージゲート審査ができる人材、大学の先生や起業家との連携も必要。

- ・(4)については、外部の有識者の専門的な知見、学校法人の支援も必要ではないか。専門家の募集にあたり人材プールが必要。人材募集シートをウェブなどでオープンにしてマッチングしたらよいのではないか。

グループ3 ※主に次の2項目を検討

(5) 地域で人を育てる仕組みをつくる

(6) 「まちのひろば」への支援

- ・(5)の説明は、高齢化の問題だけに焦点があたっているように感じた。他の課題にも視点を持つよう「地域課題」という文言を加えてはどうか。また、生徒・学生に「や地域住民」を加えることで、市民全体を育てることにしたい。

ボランティア活動の実施と内容が重複したため2つ目の丸の項目を削除した。

点線内に記載されている、その他のアイデアについて、1項目目に「土曜日」との記載があるが、自身が活動する中で企画側の事情と感じた。利用者にとっては土曜日が難しい人もいるので、週末などという形で限定しなくてもよいと思う。また、「市民自治」という言葉は難しいので、「市民を中心としたまちづくり」としてはどうか。こどものプログラミング教室について、プログラミングは例示にしてはどうか。

- ・(6)の1つ目の丸の項目について「販売」は限定的な内容となるため、作成するにとどめてはどうか。

点線内の公園・図書館等の見直しについては、実現が困難であり、例示ではあるが記載については要検討だと思う。

グループ4 ※主に次の3項目を検討

(7) みんなに届く情報発信

(8) 多摩区内の人と人とを結ぶ

(9) 多摩区の地域特性を活かした取組

- ・(7)について、「みんな」に届く情報発信の「みんな」というのを実現するには、いろんなところに配慮する必要があると感じた。具体的にいうと、各団体は頑張っているが横の情報共有、つながりができていない、催しが被るなど。そのあたりを改善できればという意見があった。

文章の修正としては、点線内の「必要とする人に必要な物を届けるための方法の研究と実践」を太文字の丸の項目に格上げしたいという意見があった。

- ・(8)について、「住民・企業・団体の交流イベントを開催」とあるが、これに「大学」を加えた方がよい。この実現には団体間の情報を横串にする仕組みづくりが必要。点線内の、他都市、他地区やコミュニティカフェ、子ども食堂の連携について、SDCで情報をまとめあげて情報発信できないかという意見があった。

- ・(9)はそのままよい。

→各グループの発表後、全体での意見交換を行った。

- 太文字の丸の具体的な取組の記載や点線内の記載はあくまでも例であり、フォーラムなどで例示あることを示す記載が必要。
- （５）の点線内の親子向け子育て講座について意見があったが、父親の参加を見越した形で土曜日にしたという理由はある。「週末」でもかまわないので残してほしい。
- 市民自治と市民を主役とするまちづくりは意味が違う。市民が自分たちの生活なり地域の運営を自分たちで考え、自分達で決めていくということが、まさに自治であり、原案どおりとしてほしい。
- 公園・図書館等の見直しに係る記述について、今現在頑ななルールがあり課題になっている。図書館の使い方について実際に見直しが始められている。市民からもしっかりと意見をいうべきである。
- 公園・図書館等の見直しに係る記述は、このままの文章だと関係機関の理解は得られないと思う。良くしていこうというという意味だと進行の中で工夫をして欲しい。
- 「既存施設」と書いてあり、さらに公園・図書館等とあるが違いが分からない。
- フォーラムでの議論が各論に入っていく恐れがあるので、とんがっている内容は敢えて外して議論を促したいという思いがある。
- あくまで検討会で意見が出たという形であり、幅広く示す方がよい。
- 各論としては重要であるが、ここは総論を記載すべき。
- 「土曜日」の記載はその曜日が難しい人もいる。限定的な記載は外すべき。
- ここにいるメンバーの意見が限定されていると思われるのが心配。委員がかなり偏っていると思われるものとしたい。この記載は共通しているものにすべき。
- このたたき台は、資料１の項目を整理して掲載している。細目から漏れているものがあれば足せばよい。議論があった点をオープンにすべき。
- 中間とりまとめは、中庸を求めるものではなく、色々な意見をもらうためのものではないか。点線内は出された意見を例示しているだけ。
- フォーラムでは、このたたき台のレイアウトで示されるのか。点線内は議論の例示であり、焦点が当てられないよう進行を工夫してほしい。
- 点線内の議論をもとに、太文字の丸の具体的な例示が出された。フォーラムでは議論の流れを説明したうえで行われるべき。
- 点線内（検討会で出されたその他のアイデア）に記載された文言は修正せずそのままとし、フォーラムの際の進行を工夫していくということによいか。
→全員賛成
- 資料１に関して、具体的サービスを話し合う中で、次のとおり紐づけを変えた方がよいという意見もあった。
 - ・生田緑地に関する項目（１）→（９）に
 - ・市民団体をつなぐ項目（１）→（２）に
 - ・地域課題解決に関する項目（１）→（３）に
- SDC の立ち上げ方、やり方として、既存の中間支援に取り組んでいる団体のノウハウや成功事例、まずかった点を引き継いだり、共存でも良いが反映するのがよい。英知を吸収して、という内容を加えるべきではないか。
- たたき台の「６ 運営について」の項目の一つに加えるのはどうか。

→全員賛成

(7) 第7回検討会

日 時 令和元年7月12日(金) 午後7時～9時

会 場 多摩区役所1階講堂

出席者 委員20人、区役所職員2名

議 題 多摩区におけるソーシャルデザインセンターの開設案(中間とりまとめ)について
ソーシャルデザインセンターの開設に向けた多摩区フォーラムについて
今後のスケジュールについて

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第6回検討会の振り返りを行った。

【多摩区におけるSDCの開設案(中間とりまとめ)について】

○コミュニティ施策は、地ケアの視点から支えるものと思うが、この点が触れられていない。

○市の施策なら概要のプリントを一緒に配布すればよい。中間とりまとめに地ケアを入れると、積み直さなければならない。

○コミュニティ施策は、本質的には地ケアの根底に基づいて進めるものと思うが、地ケアを説明するとなるとコミュニティ施策を進めることと違う話になる。

○自分が思う1番重要な理念は、これまでのコミュニティ活動と違い、自分たちでヒトモノカネを調達し結果を出していくこと。「必要な資源を獲得し結果を生み出すもの」を入れてほしい。

○ステージゲート審査は説明しないと分からないのでは。説明を加えた方がよい。

○第3回検討会までにだされた16項目は、3のSDCの開設理念に示した9項目と合致しているので、わざわざ書く必要ないと思うがどうか。

○16項目を箇条書きでよいからのせる。

○これまでの摘録を見てもらうことでできる。フォーラムにおいて、わざわざ配ると見なければならないと思われる。なかったことにはしないので、どこで見ればよいのかを明確に示せば足りる。

○地ケアは、基本的考え方の大元締め。そのために具体的に取り上げることもなかったもので、あえて書かなくともよいと思う。

○これまで、このメンバーで地ケアの議論はでてこなかった中で、加えることは違うと思う。

○6以降は合意しているところはないので、フォーラムにおいて、各々意見をいってほしい。

○6は文章の中で、次のような意見が出されたとなっているが、タイトルがほしい。

○コンソーシアムで大事な認識として、行政機能を一般人が肩代わりしていくことはないので、いろんなところと協力したほうがよい。

○令和元年度以降だとお尻がないので、今年度中の開設を目指しているのであればス

ケジュールと合わせては。

○まちのひろばについて、7頁の図だと、ここに書いてあるもの全てがまちのひろばになる。漠然としてとらえどころがなくなるので、図はいかがなものか。

○我々が話した内容でない項目は触れなくともよい。5以降は、今後話し合う内容なので触れる必要ない。

【SDCの開設に向けた多摩区フォーラムについて】

○中間取りまとめの説明は区がするのか。

○我々の立ち位置を教えてください。

○グループの中でこれまでの議論など説明してほしい。進めるのは区職員が行う。

○説明はだれが行うのか。これまでの議論を知っている人をお願いしたい。

【今後のスケジュールについて】

○運営組織の議論も9月に着手したい。10月後半を目途に取りまとめを、2月を目途にSDCを設立したい。その間、施設整備や立ち上げ支援も行っていきたい。

○スケジュールは確定か。支援準備は2か月なのか分からない。2月開設も確定か。

○行政内部の手続きもやっていく。開設は早くとも2月を目指して検討したい。

○今年度の取組しかでていないが、来年度以降の予算も考えているか。

○立ち上げ支援をすることは示している。補助金が未来永劫続くことは想定しづらく、自立して自主的に運営していくことを目指していく。

○すぐ収益がでるとは思えない。少なくとも来年度まで予算はあるのか。

○明確には申し上げられないが、今年度限りで支援がすむとは思っていない。

○事業を行うには、自主的に行うところでないとできないと思う。その点、運営母体がどのように提示できるか。そこは十分理解してということが、11月から示されていくのか。

○11月から考えるというよりも、検討会の中でも考えてほしいというイメージ。

○令和2年度以降の流れも示してほしい。イメージできるところまで情報がほしい。

○区が全く関わらないというイメージはしていない。区として中間支援のイメージなど行政としても考え方は示していきたい。

○実施するにあたり区としてはイメージできたが、他区の情報がほしい。

○運営する人の問題もある。私には先が見えず大丈夫かなという印象を持った。

◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

(8) 第8回検討会

日 時 令和元年9月13日(金) 午後7時～9時

会 場 多摩区役所11階1102・1103会議室

出席者 委員32人、区役所職員3名

議 題 多摩区フォーラム及びインターネット等を通じて寄せられた意見について
寄せられた意見の開設案への反映について
ソーシャルデザインセンターの運営について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

- 第7回検討会以降の振り返りを行った。
(会議の進行について)
- 今日の議題について、これだけの資料を短い時間でやるのは難しい。
- 資料確認の期間が1日しかなかった。ここで腰を据えてやらないと漏れが出る。
- 把握した意見について、中間取りまとめへの反映が必要か、必要であればどういう内容で反映させるか。進め方の段取りを決めないと。
- 【多摩区フォーラム及びインターネット等を通じて寄せられた意見について】
- 同系統の意見をまとめることはできないか。討議するにしても読み切れない。系統だけでなくフェーズについても整理してはどうか。
- フォーラムの参加者から受けた印象として、それぞれがSDCの概念をつかみきれていないと感じた。何をやるのか明確にしては。
- 運営、サービスなど全体の切り口、議論する予定を共有して進めるべきである。
- SDCの概念を自分達がうまく説明できない。
- これだけ意見が出たことに感動した。この方たちに少しでも関心をもっていたいただいたことは成果。SDCが具体的に何をするかを書いている。これからの議論はそれを見て。
- 中間とりまとめには、区として説明した内容と検討会で議論した内容が混在している。区として説明した部分について今後検討会でじっくりやっていくとなると、今の段階で次第2の議論には進みにくい。
- 資料2は、フォーラム等でいただいた意見を反映した開設案のたたき台。中間とりまとめの内容から変更した箇所については下線を引いている。
- 盛り込めていない切り口はあるのか。
- その点も含めて足りないところがあれば議論してもらいたい。
- SDCとは何か。何故いま問題となっているのか、何かが失敗したからか。
- 中間とりまとめは最大公約数的にうまくまとめられている。全体的にはこの流れで最終案に持って行ってよいと思う。これまで議論してきた内容が取り込まれており、自信をもって意見交換したらよい。
- まとまっているとは思いますが、SDCがどんなものかと言われた時にどうか。誰かに説明するとき、説明された人が違う考えを持ってしまうのはどうか。
- 資料2の内容は事務的にはよくまとまっている。9つの具体的機能を深く議論すれば他は自ずと決まる。
- 開設案の項目1・2を話してない。段取りされずに議題の2番にとぶのが納得いかない。検討会ではこれまで開設理念と基本的機能の9項目しか検討していない。
- 資料1の検討会以外の人の声はとても重要。仕分け・分類して進めた方がよい。
- 共有するところがばらばら。資料1のまとめ・グループ分けをしないと、ここでできない。今日は皆の知識を共有する地ならしと捉えて次回に臨んでは。
- SDCについてお答えすると、多摩区オリジナルの中間支援組織。それをみんなで考えて作ろうということ。
- 開設案の項目1・2について話していないという声もあるが、進め方は開設案の項目4の議論を中心に進めた方がよい。

- 資料の作り方、熱意は伝わるが、区の責任編集でもう少し読みやすく分かりやすくしたほうがよい。問題がないかは細かい資料を読んで判断すればよい。
また、検討会に遅れて参加した場合の発言権や、進行について議長の指示に従うといった内容を会議のルールとして決めた方がよい。
- 次回に向けては、資料1を集約したものがベースでよい。盛り込めていない意見について分科会で精査したり個別に事務局に意見する形でもよいのでは。次回までほぼ一週間しかないので、スケジュール的には延期もよいのでは。喧々諤々、否定的な意見も飛び交うが、市民創発なのでポジティブな意見交換ができるとうよい。
- 検討する範囲を絞ったらどうか。
- これからの進め方や資料の修正方法について、期限を切って意見をいただくということにするのか。
- 時間もないので区と次回の進行者に一任でよい。
- 次回は運営について話をする時間をとってほしい。
- 区に一任する内容は、資料のまとめ方と会議の進め方でよいか。
—反対意見なし—
- ◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

(9) 第9回検討会

日時 令和元年9月22日(日) 午後2時～4時

会場 多摩区役所11階1101会議室

出席者 委員16人、区役所職員3名

議題 開設案の検討の進め方について

フォーラム等で寄せられた意見(要約版)の確認

寄せられた意見の開設案への反映について

ソーシャルデザインセンターの運営について

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第8回検討会以降の振り返りを行った。

(会議のルールについて)

○前回検討会で、検討のルールをきちんとしてほしいという意見が出た。本日の次第の裏に以前まとめた本会議のルールを載せている。これはどんな会議においても基本的なこと。前は遅刻者がいたが、どうしても遅れる場合は事前連絡をする、入り方を注意するなど、大人のマナーとして考えてやっていただきたい。

【開設案の検討の進め方について】

○開設案の検討については、今日を入れてあと3回ぐらいで終わりにしたいと考えている。時間を区切らないと進むものも進まない。今日は開設案の項目1～6を一通り話し合っただけで次回再度話し合う。全体を見ながら議論を成熟させていきたい。

○時間がない中で集まっているので、意見がまとまらない時は、意見がまとまらなかった、という結論を出してほしい。

○本検討会や資料3の開設案の位置付けや役割、これまでの検討状況は資料1のとおり

り。共有認識を持った上で、パターン1の開設案を徐々にブラッシュアップしていく形で議論を進めてもらいたい。

【フォーラムで寄せられた意見（要約版）の確認について】

○資料を見て、どの資料とどの資料が関連して、どう変わったということが分からないので次回までに検討してほしい。

【寄せられた意見の開設案への反映について】

（項目1.「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における検討）

○ここが一番問題。今までこういうことをやってきた、こういう反省があったという、これまでの経緯、反省がない。

○今年の3月に市としての「基本的考え方」が出され、その話し合いは終わっている。

○これまでの経過が分かるように、関連ホームページのアドレスを追記してほしい。

○ここに、地域包括ケアシステムとの関連性を入れたらよいのではないか。

○フォーラム等で寄せられた意見をうまく取り込んでまとめているので、このままでよいと思う。

○この資料は誰に向けたものか。一般の市民向けなのか、事業を担う人向けなのかによっても違う。

○区民の皆様にお示しする役割と、実際に運営を担っていただく組織に対し、本開設案に沿った運営を求めていくという2つの役割がある。

（項目2.多摩区を取り巻く状況）

○多摩区を取り巻く状況は色々なところに書かれている。無くてもよいのではないか。

○多摩区のSDCをやる人がどう捉えるかということなので、どこかに書いてあるからよいというものではない。

○（3）に地域包括ケアシステムとSDCとの関係性が書かれていない。（1）にも人材と情報を引き継ぐと入れてほしい。「エ」の項目についても、磨けば光る多摩事業だけでなく、大きなくくりで地域課題対応事業全体とSDCが、どう協働し、リンクするかを書いてほしい。

○項目2は既存施策について書いており、その後の項目3からそれを踏まえたSDCとの関連ということになるので、このままの流れでよい。

（項目3.多摩区におけるSDCの開設理念）

○最大公約数として取り込んでいるので、このままでよい。

○「みんなが認め合い…」という理念は、最大公約数で結構だが、区民にオリジナリティを提示できるような標語にしていただければよりよい理念になると思う。

○異議があるなら次回までに対案を出してもらい、どちらがよいかを検討すればよい。

（項目4.SDCの基本的機能と具体的取組について）

○特に意見等なし

（項目5.開設場所）

○このままでよい。議論のしようがない。

（項目6.SDCの運営と多摩区役所の立上げ支援について）

○地区カルテの活用が書いてある。地域にはこういう人がいるというような情報を共有していくということか。また、区役所のこれまでの縦割りの組織では対応できない

ことが現実に起きつつあるが、区役所の再編成も含めて考えているのか。

○市の情報はたくさんあるが、1つの部署の情報だけでなく横断的な情報を定期的に提供するような組織になってもらいたい。

○「検討委員が何らかの形で携われる運営形態が望ましい」とあるが、お手盛りと捉えられかねない。これは入れる必要がない。検討委員がだめとはどこにも謳っていない。運営はできる人がやらなければつづれる。

○施策を進めるときに評価が必要だが、その中で検討委員が集まって、どうかというやり取りをするような関わりが「検討委員が何らかの形で携わる」形としてはよいのではないか。

【ソーシャルデザインセンターの運営について】

○これを読んでもイメージが湧いてこない。機能図や組織図、流れ図のたたき台のようなものを事務局が用意して議論する方がイメージが湧く。次回に向けて提案する。

○ここにいる人が作って持ってくればよい。最初から役所に出せというのは筋違いだと思う。

○自分の思いを人に図式化してもらうのは難しい。手書きでいいので作って提出してほしい。

○小グループでたたき台をつくれれば、検討会で議論しやすいが、どうか。

○個人的に案を持っている人がメール等で案を出す、又はグループワークで意見を集約する。やり方は2つに1つだと思う。小グループでなく全体でよいのでは。

○進行者と事務局が相談して、どうするか決めたら皆にメールでお知らせする。小グループでということになれば、その際にメンバーを募集する。

◎次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

(10) 第10回検討会

日 時 令和元年10月11日(金) 19時00分～20時50分

会 場 多摩区役所6階601会議室

出席者 委員20人、区役所職員3名

結果の概要と出席者の主な意見

【これまでの振り返り】

○第9回検討会以降の振り返りを行った。

【寄せられた意見の開設案への反映について】

(項目1.「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく多摩区における検討)

○特に意見なし

(項目2.多摩区を取り巻く状況)

○特に意見なし

(項目3.多摩区におけるSDCの開設理念)

○SDCの開設理念にあるべき姿として、透明性、公共性、公益性といった当たり前のことを謳わなくてよいか。

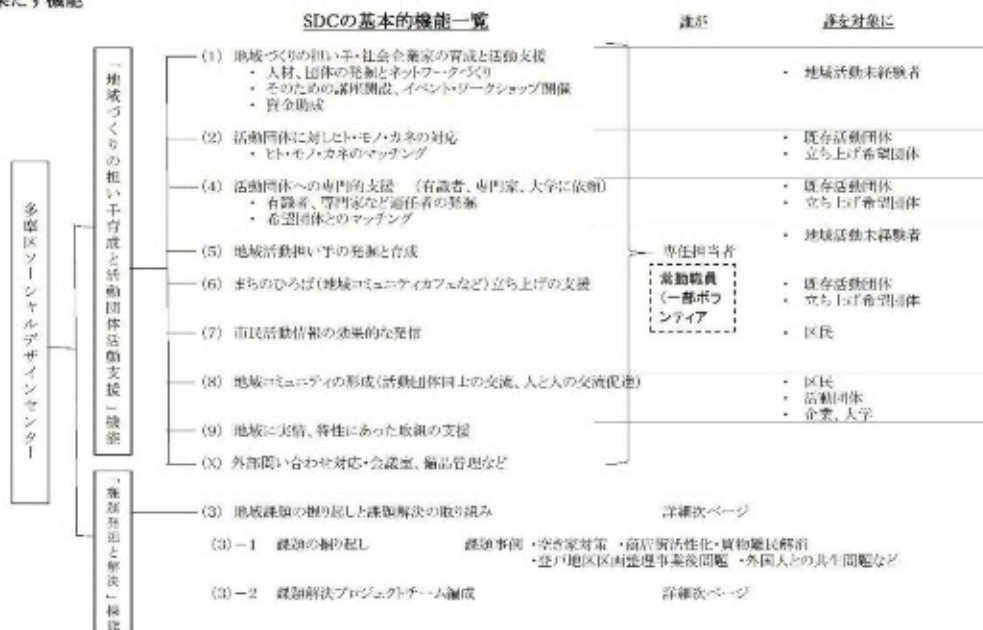
○「6.SDCの運営と多摩区役所の立上げ支援について」の中で、SDCの運営に当たって求める留意点として、公平性や中立性について載せている。

- 留意点に留まらず開設理念とする方が、助成金など申請する場合にはよいのか。
- 一般論としては公平性がないと認められない。留意点にとどまっていればその時の判断によるので活動として担保されてないなら助成金は出せないということになる。
- 理念として公明正大にやるということがあった方がよいという意見だと思ふ。それに賛成。
- 中間とりまとめの中で、検討会で出た意見として「自ら必要な資源を獲得し、結果を出す、コミュニティ活動をする」という意見が掲載されていたが、抜けている。
- フォーラムでは、SDCがどういうところかという質問も多くあったので、位置付けを開設理念の説明に入れるとよい。検討会では、SDCは多摩区オリジナルの中間支援組織という意見もあったが、中間支援を行うということを入れてはどうか。
- 中間支援だけを入れるのはなぜか。課題解決の機能もある。
- 9つの基本的機能を包含した内容を考え、その文案を次回確認できるとよい。
- SDCは中間支援だけでなく課題解決も行うのか。課題解決をする組織を支援するのか。どちらが主かわからなくなってしまう。
- これまでの議論で、いろいろな機能や事業について意見が出て、総花的だが取り組む可能性があることを確認した上で、まとめている。その点はもういいと思う。
(項目 4.SDC の基本的機能と具体的取組について)
- 特に意見等なし
(項目 5.開設場所)
- せきれい跡地は、SDCが借りて賃料を支払うということか。
- せきれい跡地を借りたい人がでてきた場合はどうするのか。
- 異議申立てや開示請求があった場合はどうなるのか。
- 市の庁舎を借りて、外部団体が使用しているケースはどういうものがあるのか。
【ソーシャルデザインセンターの運営について】
- 組織は当初できるだけ単純な形でスタートさせる。運営委員と各プロジェクトの責任者を置く。運営は月1回程度会議を設けつつ、必要に応じて増やす。その時に立ち上がっているプロジェクトについては、責任者と担当者の会議を行う。3年位で取り組む計画がよい。
- 組織についてNPO法人であるとか一般社団法人が適当であるなど限定していない。理事、常任理事のところには事務局が入る。法人については賛助会員があてはまる。事業部自体をある法人が行うことはある。理事は多摩区の自然人がよい。
- 活動団体支援機能は、事前審査が必要。合格すれば、支援を実行する。審査し評価を実施することが中心と考える。事業として直営もあるかもしれないが、審査は同じ仕組みで行う。合法性、効率性、倫理性など、透明に評価する。
- 時流に合ったものが必要とされている。組織の中はシンプルに広報、経営、企画に分け、経営が大きくなるべき。寄付を受けることをやっつけていける団体にする。どういう形でもよいが、組織を公募して公平性を担保することを強く推していきたい。
- 機能を4つに整理した運営体制案が考えられる。地域づくりの担い手の育成と、地域団体の活動支援という中間支援的機能、課題の掘り起こしと課題解決の取組とその担い手を示している。空家対策、商店街活性化など解決のためのプロジェクトチ

- ームをつくることなども考えられる。
- SDC組織運営について、区としては最低限どういう形であればいいと考えているのか。任意団体でもよいのか。
⇒最終的には法人化が理想だが、開設時期を今年度後半としており、その時点で任意団体であったとしてもそれを拒むものではない。
 - フォーラムでSDCは1つでなくてよいという意見があった。他に中間支援できる団体が何個もあれば、将来的に複数になってもおかしくはないと思う。
 - 同じような機能を持ったものが出てくるのはよいが、多摩区SDCを何個もつくるという話ではないと思う。
 - ポイントは自立と自らやること。3年後に出来なかったが補助金はもらいます、となることを避けるよう努力しなければならない。経済的に自立するために何から始めるか考えていく時期に来ている。
 - それには自立も必要だが、公的なことなので透明性は必要。寄付は受けるべきでない。SDCは行政の肩代わりをするものと認識している。
 - お金を出す方の思いを見てきている。それを活かすことは、市民創発的にはよいのではないかと思う。
 - 援助なしで出来ないのなら事業としてどうか。自分たちで稼ぐものを目指さない。
 - いろいろな形で資金を得ていかなければ継続できない。会社とは違い、市民活動の一環である。資金も使い方も柔軟に考えないとやっていけない。寄付も会費も助成金もある。トータルで事業を動かしている。収益事業でなければならないわけでない。寄付を受けないと今議論して決める場ではない。
 - 市民活動団体とSDCと機能が混同している。SDCとは何か固めないとういう議論が続いてしまう。
 - 今回運営組織に関するアイデアが出されたが、今後どうするのか。部分的に意見を述べるだけで残りの2回を終わりとするのか。
 - 最終的にまとめられる部分とそうでない部分がある。今日のアイデアを区でまとめてほしい。
 - 次回はよりレベルの高い案に育てていく必要がある。やり方を全部区に任せるというのは自立ではない。
 - 残り2回であればまとまらなくても仕方がない。
⇒第12回は最終確認を予定しており、実質的な議論は次回の第11回が最後となる。運営には様々な考えがあることは承知している。区としてはいただいた意見を参考としながら、考え方を一定程度まとめていく必要があると考えている。意見がまとまるのは理想の1つではあるが、一致しなかったとしても合意形成するスタンスが大前提としてある中で、まとめた内容について意見をいただく形はあり得る。

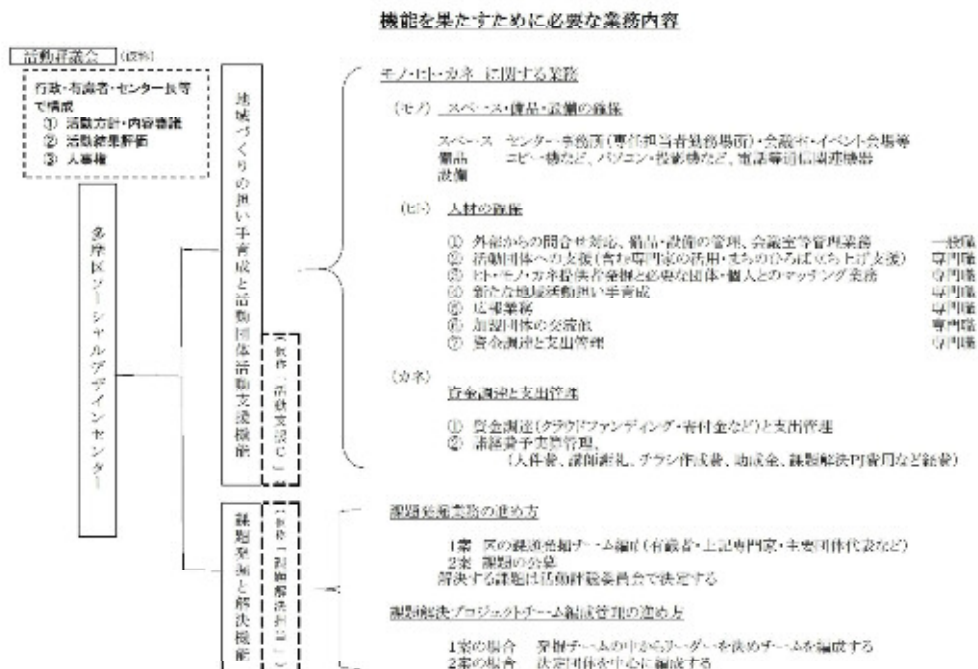
多摩区ソーシャルデザインセンター運営体制案について
 (SDC開設案中間とりまとめ(7月)に基づき作成)

1 果たす機能



注) ()内数字はソーシャルデザインセンター開設案 4項SDCの基本的機能(ページ除以降)の各項目を表す

2 機能を果たすために必要な業務



(1 1) 第 1 1 回検討会
※記録完成後に掲載

(1 2) 第 1 2 回検討会
※記録完成後に掲載

4 基本的考え方及び多摩区の実施に関する出前説明の実施状況

日 程	団体等の名称	備 考
平成31年4月8日	多摩区民活動・交流センター運営委員会	
平成31年4月11日	多摩区民生委員児童委員協議会	理事総会
平成31年4月17日	多摩区まちづくり協議会	運営委員会
平成31年4月22日	多摩区・3大学連携協議会	
平成31年4月23日	多摩区社会福祉協議会	職員への個別説明
平成31年4月25日	多摩区老人クラブ連合会	総会
令和元年5月16日	生田地区町会連合会	総会
令和元年5月20日	稲田地区町会連合会	総会
令和元年5月27日	多摩区まちづくり協議会	総会
令和元年5月30日	園長・校長連絡会	
令和元年6月4日	クスリのナカヤマ	
令和元年6月24日	生田八日会	
令和元年6月25日	多摩区地域教育会議	総会
令和元年7月2日	多摩区社会福祉協議会、多摩区民生委員児童委員協議会	会長への個別説明
令和元年7月6日	多摩区PTA協議会	運営委員会
令和元年7月8日	多摩区民生委員児童委員協議会	理事会
令和元年7月12日	多摩区町会連合会	役員会
令和元年7月18日	川崎生田ライオンズクラブ	
令和元年7月26日	多摩区民活動・交流センター全体会議	
令和元年7月31日	多摩区指定避難所合同会議	
令和元年8月29日	多摩区管理運営協議会・公園緑地愛護会合同連絡会	

5 多摩区におけるソーシャルデザインセンターの開設案について(中間とりまとめ)に対する意見募集の結果について

○概要

多摩区役所では、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づき、地域での新しい活動や価値を生み出す基盤となる「ソーシャルデザインセンター」(以下「SDC」といいます。)の今年度中の開設に向けて、検討を進めています。平成31年4月に公募委員による「これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会」(以下「検討会」といいます。)を立ち上げ、月2回の会議や打合せを行い、「市民創発」や「市民主体の運営」といった視点を大切にして議論を重ねながら、多摩区として望ましい「SDC」の開設に向けた検討を進めてきました。

このたび、検討会での意見を踏まえ、多摩区におけるSDCの開設案の中間とりまとめを行いましたので、「SDCの開設に向けた多摩区フォーラム」(以下「多摩区フォーラム」といいます。)を開催するとともに、インターネット等を通じた意見募集を行いました。

その結果、多摩区フォーラムではグループトークに参加いただいた77名の方から480件の御意見・質問を、インターネット等を通じた意見募集では11通・56件の御意見をいただきましたので、御意見等の内容とそれに対する区の考え方を次のとおり公表します。

○意見募集の概要

(1) 多摩区フォーラム

募集の周知方法	・多摩区ホームページ ・市政だより多摩区版(7月1日号) ・多摩区役所等でのチラシ配布
会場、日時、参加人数	多摩区役所 令和元年7月28日(日)13:30~16:30 85人(うちグループトーク参加者は77人)

(2) インターネット等を通じた意見募集

意見の募集期間	令和元年7月29日(月)~8月30日(金)
意見の提出方法	郵送、持参、FAX、電子メール
募集の周知方法	・多摩区ホームページ ・市政だより多摩区版(8月1日号) ・多摩区役所、生田出張所、多摩図書館で資料の閲覧 ・多摩区フォーラムでの案内
結果の公表方法	・多摩区ホームページ

3 結果の概要

(1) 多摩区フォーラム

参加者・意見件数	77人・480件
----------	----------

(2) インターネット等を通じた意見募集

意見提出数(意見件数)		11通(56件)
内訳	郵送	0通(0件)
	持参	0通(0件)
	FAX	2通(4件)
	電子メール	9通(52件)

○御意見の内容と対応

開設案（中間とりまとめ）の内容に関して、SDC の基本的機能と具体的な取組、運営についての考え方を中心に、多くの御意見・御質問が寄せられました。いただいた御意見等は検討会で共有しながら、SDC の骨格を示すために必要な内容を開設案へ反映しました。また、SDC が担うことが望まれる具体的な取組のアイデアも多く寄せられましたので、今後 SDC の運営組織においても取組の参考とできるよう、いただいた御意見のすべてを資料編に掲載しました。

【御意見に対する区の考え方の区分】

- A 御意見を踏まえ、開設案に反映したもの
- B 御意見の趣旨が開設案に沿ったものであり、御意見を踏まえて取組を推進するもの
- C 今後の取組を進めていく上で参考とするもの
- D 開設案に対する質問・要望の御意見
- E その他

【御意見の件数と対応区分】

項目	A	B	C	D	E	計
「1.『これからのコミュニティ施策の基本的考え方』に基づく多摩区における検討」に関すること	17	1	12	2	2	34
「2.多摩区を取り巻く状況」に関すること	2	8	11	2	0	23
「3.多摩区における SDC の開設理念」に関すること	10	8	10	0	0	28
「4.SDC の基本的機能と具体的な取組について」に関すること	18	124	133	30	8	313
(1) 多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る	4	16	14	3	1	38
(2) 多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする	4	18	7	2	1	32
(3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開	4	12	20	5	1	42
(4) 地域課題への専門的支援	1	8	11	3	0	23
(5) 地域で人を育てる仕組みをつくる	4	11	14	2	0	31
(6) 「まちのひろば」への支援	0	19	23	5	0	47
(7) みんなに届く情報発信	0	16	9	2	1	28
(8) 多摩区内の人と人とを結ぶ	1	14	8	2	3	28
(9) 多摩区の地域特性を活かした取組	0	7	18	1	0	26
(10) (1)～(9)以外に関する御意見	0	3	9	5	1	18
「5.開設場所」に関すること	6	3	22	3	0	34
「6.運営についての考え方」に関すること	9	7	48	11	0	75
「7.今後の検討の進め方」に関すること	7	0	12	6	0	25
その他コミュニティ施策に関すること	0	0	1	0	3	4
合計	69	151	249	54	13	536

※1 通の意見書の中に複数の御意見が含まれていた場合は、項目に合わせて分割・整理するとともに、長文の御意見は必要に応じて要約しています。

○御意見の要旨と区の考え方

「1.『これからのコミュニティ施策の基本的考え方』に基づく多摩区における検討」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
1	良いことを書いてあるけどどうやって実現するのか。	E
2	何を狙っているのか。具体的に何をするか。枠組みがよくわからない (同趣旨ほか2件)	A
3	もっと団体の見学とか話を聞く機会を設けながら進めるべきである。	A
4	SDCは市民活動支援センターとどう違うのか。	D
5	川崎市は新しい公共施設は作らないとのことだが、どう整合性をとるのか。	D
6	SDCと市・区施設の関係性を明確化すべきである。	C
7	行政がフォローする部分と検討会で企画する部分の切り分けを明確にする必要がある。	C
8	市長の肝いりの「地域包括ケアシステム」と同じような施策になっていて、どの様に取り組んでいけばいいのか、市民は分からないのではないか。施策推進の各局の横の連携を密に行うべきである。 (同趣旨ほか10件)	A
9	価値を創造することと、社会の劣化を防止することは相反するのではないか。	C
10	多摩区には数多くのネットワーク活動団体がある。そのすべてを網羅した更なるネットワークになれば素晴らしい。	B
11	SDCの他希望のシナリオの具体的計画はどうなっているか。	E
12	本市は、「個別支援の強化」と「地域力の向上」を図っているが、活動が広がっていない現状であり、コミュニティ施策として地域コミュニティの再構築・強化を図り、互助活動組成を支援することで「地域包括ケアシステム」の構築を支え、介護給付費の増加傾向に歯止めを図ることが急務	A
13	今回、新たにSDCを導入する目的がわかりづらい。「これからのコミュニティ施策の基本的な考え方」における区域レベルの取組を推進するため「多摩区区域レベル取り組み検討会」を設置したとあるが、従来の「区民会議」「まちづくり協議会」の設置目的が明確であったのに対して今回の新しい施策は「何を目的としているのか」具体的にでない。また、これまで12年間続けられた「区民会議」や「まちづくり協議会」等の活動を行政サイドでどのように評価して、何をさらに改善しようとしているのか明確に示してほしい。	A
14	「希望のシナリオ」は、どの様に進めれば実現できるのか、という実現性の検討が不足している。市レベル以外は、各区に任せる、という方針となっており、結局、各区に対して、どの様に実現していくのかを検討するところから丸投げしているのと変わらないという印象だ。今回、多摩区のSDC開設案の検討は、「市民主導で」と言いながら、区役所が事務局として動いていた。ただ、議論の進め方は「市民任せ」とした結果、何をどの様に検討していけば良いかを分かっている人材がおらず、結局、開設に向けた検討にならなかった。開設案(中間とりまとめ)と言いながら、実際には、検討会に参加していた市民が、市民の立場で、SDCに欲しい機能を出し合い、それをまとめただけとなっており、良く言っても市場のニーズを整理したに過ぎない。	C
15	多摩区だけの取り組みと考えがちだが、「希望のシナリオ」的なワークショップや取り組みは定期的に川崎で横断的に継続してほしい。川崎は多様性を中心にした考え方をしているも、多摩区自身は地元に着目し過ぎてる部分があり、ほかの区との交流もこれから盛んになってほしいと思う。多摩区はそれぞれのコミュニティが横断的に動いているように見えない時がある。	C
16	今回、フォーラムを開催され、多くの方の話を聞いたのは非常に有意義であったと思うが、参加された方からは、全体像が分かるようにしないと、いきなりSDCと言われても何を話して良いか分からない、きれいにまとまっているように見えるが、このまま進んでよいのかこの先が心配、コミュニティ施策を考える上で、みまもり支援センターの人や、地域包括の人がいないのは何故?といった声があった。	C
17	現状は、SDC立ち上げが目的になっている感が否めない。今はごく一部の人が会議室に集まって話をしている、本当に必要なことが見えていない。今、仮にSDCが立ち上がっても市民団体と繋がっていない、実施するにも材料(調査不足)がそろっていないので、ニーズに合った機能を実現するのは難しい。(=まち協の反省点)	C
18	今後の進め方について、今後もフォーラムのようなイベントを開催し、市が提案するコミュニティ施策の周知と共に、今後の多摩区のコミュニティ施策について区民が考えるきっかけ作りの場が必要だと思う。	C
19	中間支援がミッションであるなら市民活動団体、自治体・町会等と繋がり、課題やニーズの調査を実施し、弱み強みを分析した上で、多摩区に必要とされる機能の優先順位をつけた方がよいと思う。	C

20	焦らず、一度リセットしてコンサルを入れて、市民団体や町会・自治会と信頼、繋がりを築くと同時に調査・分析をすることからスタートした方が、遠回りかもしれないが後々のためには良い結果が生まれると思う。そのためにも役所内が繋がる必要があると思う。	C
21	色々読んでみて、今回のSDCの企画は、いいと思うが、まずいところがある。検討委員の中に、特定の組織の者が多く入り込んでいる。これがまずいのは、特定の組織ごと設立メンバーになり、特定の目的で多数で仕切ろうとしていること。多摩区の住民以外が検討委員に入っている。これがまずいのは、特定の組織ごと設立のメンバーになり、特定の目的で仕切ろうとしていること。これを是正ください。他は大変結構と思います。これを除き市役所はよくやっていると思う。	C
22	実際の運営について、スモールスタートで始めるという話が、当初よりしきりに言われているが、経営用語としてのスモールスタートとは、事業を始めるにあたって経営計画を綿密に行い、その結果として出てくる実行案の一つです。経営計画なくして、スモールもミドルもラージもありません。SDCを立ち上げるためにまずやるべきことは、次を可及的速やかに行うこととなります。① 運営組織の倫理規範の策定と規約概要の起草、② 運営に求められる志向と機能の確認、③ 運営の経営計画の立案、④ 運営組織の検討、⑤ 運営開始の時期・方法、各点を議する運営準備会議を行い、決定後に実行していくことになると思われま。	C

「2.多摩区を取り巻く状況」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
23	緑・多摩川・梨・生田緑地の文化はPRになる。	B
24	多摩区の人口動向を考慮する必要がある。	B
25	父親を地域に出てもらおう仕組み（現状を知ってもらう）必要である。	B
26	多摩区の強み・弱みを分析する必要がある。	B
27	再開の今が逆にチャンス。新たなことができるかもしれない。	C
28	区画整理が行われているが、区域内の商業地域内に単なるワンルームばかりになっている。	C
29	ミュージアムや緑地はとても有名だが、街の事は知らない人が多い。	C
30	多摩区を取り巻く現状を広く区民へ公開することが必要である。	A
31	多摩区の強み・魅力を生かす手段とは何か。	D
32	現在の多摩区において、何が一番問題視されているのか、最も改善すべき点が何か疑問である。	D
33	多摩区は生田緑地、多摩川等自然豊か、高齢化も一部進んでいる、登戸区画整理事業で商店街が変化している。	B
34	登戸・向ヶ丘遊園周辺の未来像が定まっていない。	C
35	多摩区のイメージが暗い。	C
36	「問題」「課題」の抽出・整理→「解決策」「目的」「手段」etcの検討の順で考えるべきである。	C
37	地域活動に参加しやすくする工夫が必要である。	B
38	少子化と高齢化をキーとした施策の展開が必要である。	B
39	市民活動は活発だが各々トンガリすぎてバラバラとなっている。	C
40	都内に勤務している人が市民活動に参加しにくい。	C
41	職住接近、地元の仕事作りで若い人が働ける地域になるとよい。	C
42	多摩区を取り巻く状況、開設理念、基本機能の中に障害者について記載されていない。	A
43	都内に働きに出ている人が半数近くいて、夜に戻ってくる人口帯が多く住んでいる区であるので、夜に戻ってくる人たちの活用も考えてほしい。昼間、市民活動で活発な区であるだけに、夜間都内で働く人たちの知恵を取り入れることで町は活性化できると考える。人口が少ない中で夜間活動する人たちが、まちを好きになっていく過程を都心部だからこその取り込み方ができればと思う。	B

44	市民活動家たちは、「若い人が来ない」と嘆くことがあるが、本当にウェルカムなのであれば、今のような状況は生まれたいし、どんな人でも受け入れられるSDCあってほしいと思う。多摩区は3大学を抱える区だが、地域住民には「まちづくりに興味ある大学生」だけをターゲットに絞っているように見えている。向ヶ丘遊園などでアルバイトしている大学生や下宿で住んでいる学生もいるはずで、そういう人たちにも気づいてもらえるようなまちづくりであってほしい。	C
45	多摩区を取り巻く状況の中に障害者について記載されていない。	C

「3.多摩区におけるSDCの開設理念」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
46	SDCの機能を明確化すべきである。	A
47	人と情報が自然に集まる場になるとよい。	B
48	色々ありすぎるとSDCの概念がぼやけてしまう。	C
49	新しいコミュニティをコーディネートする場所だと思う。	A
50	SDCの概念が人によって理解が違ふ。建物なのか機能なのか。 (同趣旨ほか2件)	A
51	こどもの幸せを第一に考える必要がある。	C
52	SDCの機能は将来地域の中でこそ必要なのではないか？	C
53	トータルの方向が見えにくい。	A
54	多様な活動が目に見えるプラットフォームが必要である。	B
55	「理念」だと抽象的になってしまう。「目的」と「手段」の方がわかりやすい。	C
56	指標、達成目標を意識する必要がある(例:SDGsの17の目標、169のターゲット)。	A
57	理念は「みんな」に向けたものであること。	B
58	活動が行き詰まったりした時の相談、支援がしっかりできるようにする必要がある。	B
59	小さい子達のいるお母さん達が立ち寄れる場所になるとよい。	C
60	川崎都民にならないために、様々な世代が活動したいと思う地域になるとよい。	B
61	多摩区におけるSDC開設理念についてですが、その標語になっている「みんなが認め合い力を合わせて、みんなが幸せなまちをつくる」についてです。これは、数多く出た項目の最大公約数としてはいいのですが、抽象化しすぎて、逆に、無意味になっています。川崎市多摩区のオリジナリティが全く感じられません。石器時代からいつの時代の、地球上どここの国地域でも成り立つ内容になってしまっています。もっと、世界で一つの多摩区の『独自性』が感じられる夢のある標語にすべきと思われる。具体的には、その点『独自性』を重視して、再度で揉んで、提案していくべきと思われます。 (同趣旨ほか1件)	C
62	既存組織で解決できない諸問題を解決する。	B
63	多世代の交流があり元気なまちづくりを目指す。	B
64	社会問題解決モデルCityでイメージUPを図る。	C
65	緑保全団体のネットワークも多摩区の中心的活動である。	C
66	井戸端会議、きっかけづくりで知る、助け合う。	B
67	多摩区まちづくり協議会は、地域のつながりや地域コミュニティの大切さをテーマに地ケアに関する講座やワークショップを開催してきた。「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」では、地域包括ケアシステム推進ビジョンの取組をコミュニティ施策の視点から、相互補完的に充実させる位置づけであることと記載されていることなどからも、SDCの開設理念に「地域包括ケアシステム」のポイントである「自助」「共助」の必要性などについて加えてほしい。	A
68	新たに何か箱物を作ることを想像している人が多いが、既存施設(学校・保育園施設)を再活用したり、売り込み方を変えコミュニティをつなぐ場所を複数拠点で考えてほしい。多摩区は地域も広く、登戸駅周辺、生田、中野島、宿河原などそれぞれに中間的なSDC(まちの広場など)があり、交流を図れるような運営も取り入れるべきと思う。	A

69	子育て支援施設などが老朽化していて、子どもだけが入れる施設になりつつある。大人も入れるようなワーキングスペースと合体したような設備だと子どもの学童保育的なことも一緒にできたり、子どもと大人の交流接点を持つことが可能になると思う。	C
70	多摩区におけるSDCの開設理念に障害者について記載されていない。	A

「4.SDCの基本的機能と具体的な取組について」に関すること

(1) 多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る

No.	意見・質問要旨	区分
71	多摩区内で活動している様々な団体個人を発掘する必要がある。 (同趣旨ほか2件)	B
72	個人や団体が持っている特性を知る仕組みが必要である。 (同趣旨ほか3件)	B
73	地域のたくさんあるNPOを把握、共有、連携を推進できる機能が必要である。 (同趣旨ほか1件)	B
74	町内会・自治会を通して地域の人材を探すのがよいのではないか。 (同趣旨ほか1件)	C
75	具体的に今ある多摩区の既存市民活動団体を一覧にし、ネットワークをつくり、つぶやき(各団体の困っている事等)として出してもらうのがよい。	C
76	新たなボランティアなどで人々の関心を引きつけるのがよい。 (同趣旨ほか1件)	C
77	何ができるかを考えるための集まりがあるとよい。 (同趣旨ほか2件)	C
78	退職者の集まるサロンがあるとよい。	C
79	子育て中のママのスキルを収集・活用するとよい(お茶会やランチ会で)。	C
80	子・老・障・外、様々な人達共同のイベントがあるとよい。	B
81	人間関係づくりには、飲む・食べる・作るの3要素が不可欠ではないか。	C
82	経験をかくさない形の人“材”リストが必要ではないか。	C
83	様々なスキルをもった人を人材バンクとして登録し必要なスキルを市民活動団体等に派遣するとよい。	B
84	同じ関心分野、志を持つ人をつなぐ(つなげる)人が重要である。	B
85	こどもミーティング(こどもの意見を収集する場)を開催するとよい。	C
86	大田まちづくりカフェのスライド最後から2頁目の図は「土壌」づくりの参考になるので文章で追加するとよい。	C
87	いこいの家はもっと必要。坂道多く、歩いて行けない。	E
88	大学他、若い人の参画、企業参画をどのように促すのか。 (同趣旨ほか2件)	D
89	地域住民へのPRが必要である。 (同趣旨ほか2件)	A
90	新たな事業企画について一定期間募集し、審査をSDCの中でして事業化までフォローするとよい。 (同趣旨ほか1件)	B
91	独自性を生み出す努力が必要、それが具体的に見つからないと近隣へ流れてしまう。 (同趣旨ほか1件)	B
92	たくさんの方々が参加しやすい、入りやすい場所づくり(オシャレな雰囲気とか)が必要。	A

(2) 多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする

No.	意見・質問要旨	区分
93	マッチングに際しては、公平性と透明性が重要である。	A

94	ヒト・モノ・カネのマッチングやコーディネートシステムは具体的にどう機能するのか。	D
95	多摩区内企業と人材をマッチングするとよい（子育て中のママ、シニア、時短）。 （同趣旨ほか1件）	B
96	活動をしたい人は多く、支援したい人も多いが、つながらない。コーディネートが不足している。 （同趣旨ほか1件）	A
97	育児期女性のジョブマッチング（プラットフォーム整備）をするとよい。	C
98	シニアが子育て世代を助ける活動があるとよい。	C
99	個人や団体が持っている特性を知る仕組みが必要である（ポータルサイト、人材バンク、リスト作成） （同趣旨ほか2件）	B
100	その他のアイデアで「助成金対応」とあるが、何をやる事業なのか。	D
101	様々な活動を進める為の資金をどの様に集めるかが大事である。	C
102	多摩区へのふるさと納税を活動団体へ分配するとよい。	E
103	すでに中間支援をやっている団体とつながり情報共有する必要がある。	B
104	地域との連携が必要である。	B
105	団体の交流会を開催するとよい。	B
106	障害事業所への技術提供があるとよい。	B
107	障害者事業所がもっている強みと地域のニーズをマッチングするとよい。	B
108	経験を自慢する機会があるとよい。	B
109	誰でも参加できるとよい（障がいの有無、LGBT等）。	B
110	ヒト、モノ、カネの他に「場（場所）」が必要である。 （同趣旨ほか2件）	B
111	マッチングを長期的視点でマネジメントするならば、入れ替わるスタッフの「暗黙知」ではなく、ICTツールを団体として運用した方がよい。	C
112	企業に賛助会員になってもらうとよい。	C
113	食品廃棄物のリサイクルの仕組み（町角冷蔵庫）があるとよい。	C
114	学校（児童・生徒）への参加促進（中学校部活の制限）を働きかけるとよい。	C
115	まちのひろばの組織には、町内会・自治会の役割が重要である。	B
116	必要な人に必要な情報を届けてほしい。	B
117	多摩区まちづくり協議会では、毎年「まちカツ！」を開催し、市民活動団体の発表と交流の場を設け、広く区民に知ってもらうとともに、団体同士の交流が図られるなどの効果が現れている。市民活動団体の活性化を図るためには、活動発表や交流する場が必要であると考えており、SDCにおいても毎年「まちカツ！」のような区内の市民活動団体の活動発表、交流会を開催してほしい。	A
118	ヒト、モノ、カネの提供者の情報収集を行い、マッチングやコーディネートするシステムを作る「あげます・くださいサイト」の運営、各団体が得意とすることの情報発信、マッチングイベントの開催などは、SDGsを進めるのに、有効だと思う。	B

(3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開

No.	意見・質問要旨	区分
119	地域課題の調査をどのように実施するのか。 （同趣旨ほか2件）	D
120	優先的に取り組むべき課題をどのように決定・選出するのか。	D
121	困りごとのワンストップ相談窓口は必要（きちんと専門家につなげられる所）である。	B
122	問題のリサーチから始めるべきである。	B
123	悩みを気軽に話せる関係作りが必要である。	B

124	高齢者のみの世帯が増えると予想されるが生活相談、心の悩み等相談できる場が身近にほしい。	C
125	外国人の居住に関して、住居が決まってすぐに情報提供できる場所がほしい（安心感を与えたい）。	C
126	登戸の町の未来がどうなっていくのか。住む人々が現状では見えにくい。	C
127	多摩区の弱みは何か。	D
128	弱みとして、坂が多いのは不便だが、坂にスポットを当てて名所にできないか（例：ピクニックタウン、長尾台のコミュニティバス）	C
129	町会・自治会との連携が必要である。 （同趣旨ほか1件）	B
130	町会の行方が心配である。	C
131	小中学校の子どもたちから地域の勉強をさせるべきである。	C
132	小学校登校前に朝食抜きの子も達が多いという現実をどうするか。	C
133	まち全体を歩行者天国のようにした遊びや（道遊び）交流会を開催するとよい。	C
134	子どもが中心となる活動や取組（防災イベントなど）があるとよい。	C
135	こどもと老人の施設を融合（合体）できないか。	E
136	空き家を活用できる様な制度作りが必要である。 （同趣旨ほか4件）	C
137	川に囲まれているので、防災対策（水害など）に取り組む必要がある。	C
138	防災を視点としたネットワーク作りをするとよい。	C
139	社会人（会社勤め）の方を活動に巻き込む仕組みづくりが必要である。（例：push型情報発信） （同趣旨ほか1件）	B
140	若い人が町に関わりやすくなるようなイベントがあるとよい。	B
141	外国籍の人たち、障がいの人たちも参加できるバリアフリーな活動があるとよい。 （同趣旨ほか1件）	B
142	不登校の子の居場所があるとよい。	C
143	ひきこもりの人たちも気軽に参加できる活動があるとよい。	C
144	おもしろいと思える活動が必要である。	A
145	三田地区にあるKCセンター（の活用）がうまく機能していないので、不満である。	C
146	全市の共通課題について、区外からのアプローチもできるようにすべきである。	B
147	小さく生んで大きく育てる取組方法を導入するとよい。	B
148	社会問題解決のモデルcityとしたい（例：食品ロス問題＝空き家・アパート、子ども食堂など）。	C
149	住みよいまちづくりを進めるためには、地域の人々が自分たちのまちの課題を発見し、解決につながる取組が生まれる仕組みが必要である。多摩区まちづくり協議会では、地域イベントに出展して「出張たまサロン」と称して地域の課題に関して簡単なアンケートを行ったり、「たまサロン」と称して、地域の課題を出し合い、意見交換する場を設けたりした。SDCの取組においても、地域の課題を吸い上げ、まちの新たな課題を発見し、解決する仕組みを作ってほしい。	A
150	多摩区まちづくり協議会では、メンバーが自ら地域の課題を見つけ出し、プロジェクトを立ち上げ、将来的には自立することを目的に自らその解決に当たってきた。多摩区の「磨けば光る多摩事業」は、地域課題の解決だけでなく市民活動団体の活性化にも有効であると考え、引き続き同事業のように、市民活動団体が感じている地域課題解決の提案をSDCが受け、それを支援する仕組みを作ってほしい。	A
151	多摩区まちづくり協議会では、中間支援的機能の拡充の一環として、「多摩★まちCafé（活動団体の情報発信並びに区民との交流の場）」や「多摩★まち大学（民学産公と連携したまちづくりに関する学びの場）」を開催し、区民のまちづくりへの意識の醸成やノウハウの共有を図ってきた。このような取組が地域課題の解決につながることから、今後も引き続き、「多摩★まちCafé」や「多摩★まち大学」のような取組を続けてほしい。	A

(4) 地域課題への専門的支援

No.	意見・質問要旨	区分
152	専門家、技術者の集め方をどうするのか。	D
153	町内会・自治会とのマッチング方法をどうするのか。	D
154	どんな知識を求められるかによって、お手伝いできることもあると思う。	C
155	プロボノの活用と専門家からのアドバイザリングは、無料ボランティアで行うのか。	D
156	地域人材（プロボノワーカーなど）のバンクづくりには興味がある。	C
157	普段から地域間でのつながりを持つことが、「共助」力の強化につながる。	A
158	認知症の暮らしの困りごとに対応できる場所など、相談窓口の設置が必要である。	C
159	川崎に住む人の多摩区内での紹介やネットワーキング（土業とか）するとよい。	B
160	子育てへの支援が必要である。	B
161	常設プレーパークがあるとよい。現状、川崎の子が思いっきり遊べない。	C
162	企業ともっと積極的にコラボし、つながるとよい。	B
163	活動地域とSDC拠点が離れていても、サービスを楽しむようにすべきである。	B
164	医療方面の相談窓口を充実（他との連携含む）するとよい。	C
165	3大学との先生と話し合うとよい。	B
166	市民団体の困りごと（資金問題 助成金の案内、申請事務の手助け）に対応できるとよい。 (同趣旨ほか1件)	B
167	任意団体は信用を得るのが難しい。行政の支援が必要である。	C
168	いろいろな団体を行政が紹介する手段を取ってほしい。	C
169	子育て世代が喜んで移住、住み続ける施策が必要である。	C
170	防災イベントの開催によって防災スキルを高める必要がある。 (同趣旨ほか1件)	C
171	専門的・技術的支援のできる地域人材（プロボノワーカーなど）バンクをつくり、各団体からの依頼に応じて紹介することは、積極的に行った方がいいと思う。	B
172	専門的・技術的支援のできる地域人材は、多くないと思う。身近に少しだけなら手伝えるような人、知恵を持った人への協力などは、まだそういう層にアクセスできていだけな気がする。プロボノでさえまだ知らない人が多く、プロボノに発展するような「まちの課題を解決できるような仕事化する」ことも考えていかなければならないと思う。	C

(5) 地域で人を育てる仕組みをつくる

No.	意見・質問要旨	区分
173	人員・人材の発掘・開発について、この事業はこのような能力を持つ人がいない、少ない。	C
174	社会に貢献する人材をどう育てるのか。	D
175	人材育成には、行政・社協・小中高での講習会の開催が考えられる。	C
176	人材育成の場が少ない。 (同趣旨ほか1件)	C
177	専門家のボランティアをベースにしたメンターシステムをつくるのがよい。	C
178	事務方の人材と現場方の人材の育ちが必要である。	C
179	地域の小中高などの学生、若者が地域で活動していないことが課題。ボランティア等のマッチングが必要である。	B
180	地域と複数学校間のイベントコーディネートを行うとよい（消防や警察も）。	B
181	大学生が地域にインターンというのはい多いが、市民がもっと大学で学べる場（地域について）があってもよい。	C

182	大学の中に地域の環境、農業について学ぶサステナビリティ講座があると市民との連携ができると思う。	C
183	若い人材の計画的育成や地域に住む大学生の活用を図るとよい（チャンスは高3生）。	B
184	子ども、学校と連携したSDC活動（例：学校訪問）を行うとよい。	B
185	高校での町とのつながりが深いと感じる 小中学校・大学のように、ボランティアのようなものを高校生にもつと依頼してもよいのではないか。	B
186	地域の大切な公共施設「学校」の位置付けはどうするのか。	D
187	市民団体の困りごととは高齢化。若い人の人材育成が必要である。	B
188	社会人教育への一般人の参加が必要である。	C
189	農業体験を行うとよい。	C
190	様々な方々（障害、海外ルーツ他多様な方々）が住んでいることを住民として知る、支え合える場をつくる必要がある。	C
191	子どもが楽しく参加できる活動があるとよい。 （同趣旨ほか1件）	A
192	若い世代が地域の活動に興味を持てる取組が必要である。 （同趣旨ほか1件）	A
193	子どもと高齢者の交流の場を作ることが必要である。 （同趣旨ほか1件）	B
194	20代、30代、40代が活動出来る場があるとよい。	B
195	取組のアイデアとして、お父さん向けのキャンパススキル講座が考えられる。	C
196	ハンディキャップのある方の支援が必要である。 （同趣旨ほか1件）	B
197	新たに取り組む事業を区民へ発信する機能や紹介する機能が必要である。	C
198	年齢やライフステージに応じた、地域で活動するための人材養成塾の開講と運営は、例えば、民生委員児童委員のなり手がなかなか見つからずに困るということを解決することにも役立つと思うが、それ以前の問題解決に役立つかもしれないという期待がある。何らかの理由で就労できずに、もしくは、何らかの理由で一度は就労したのだが一度離職して、そのあとずっと再就職できずに40代50代になってしまったという人でも、自分の生きるための方法を見つける手助けができるかもしれないと思う。そのためには、例えば、「だい job センター」のようなところを多摩区にも開設・運営していただけたらと思う。	C

(6) 「まちのひろば」への支援

No.	意見・質問要旨	区分
199	地域にふらっと参加できるような“場”があるとよい。	B
200	スペースの調査、情報収集・整理をどのように行うのか。	D
201	地域交流の場所はたくさんあるが有効に活用されていない。	C
202	高齢者が居場所に行っているカフェと子ども・子育て世代が場所を共有するとよい（「よい」ごちゃごちゃ感）。	C
203	ネットワーク環境が整備されたコワーキングスペースとして開放される施設があるとよい。	C
204	サテライトオフィスとしての利用できる場所があるとよい。	C
205	長生きするのが楽しくなるよう、色々相談できる場所があるとよい。	B
206	区役所や料理室、コミュニティスペースなどを活用し、「自炊力」の向上として手軽に料理をできる場が増えるよい（特に男性）。	C
207	外国人が気軽に集まる場所があるとよい。	B
208	子どもを遊ばせながら大人が話をできる場所があるとよい。	C
209	大きな場に入りにくい。ニーズに合ったたくさんの場づくりが行われるとよい。	C
210	コンビニ、ミニスーパー、個人商店等の活用も考えられるのではないか。	C
211	まちのひろばとしては、公園や移動図書館が考えられる。	C

212	無料で休める場所がほしい（コミュニティ的）。	C
213	地域に集まる場所が欲しい（民生委員活動、会食会など）。 （同趣旨ほか2件）	B
214	気軽に使える地域施設が多摩区にはない。	C
215	就職活動についてなど、地域に住んでいる様々な職種の方と意見を交換する場が欲しい。	C
216	不動産屋の情報提供と発信があるとよい。	C
217	多摩区の地域公共施設の偏在を解消できるか。	D
218	登戸、向ヶ丘遊園周辺は区画整理事業を展開しているが「フツウの公園」ができ現状面白くない。有益な“まちひろば”になってほしい。	C
219	区画整理によりできた空き地の活用（期間限定にはなるが有効活用）が考えられる。	C
220	管理運営協議会に権限を移譲し、自主管理による公園の活用促進を図るのがよい。	C
221	各分野のノウハウの育成（支援・学びの場）	B
222	行政・地域包括支援センターの応援でカフェを開催するとよい（高齢者の話し相手）。	C
223	人・資金・場所にみんな苦勞している。	B
224	小さな単位のカフェへの支援が必要である。 （同趣旨ほか1件）	B
225	公的な場所を使うことができるとよい。 （同趣旨ほか2件）	B
226	町内会等ですでに行われているイベントや事業と調整するのか。	D
227	生活支援分野を担うまちのひろばを構築する必要がある。	C
228	「まちのひろば」になりうる場所はすでにあちこちにある。人手や運用の考え方が問題である。	B
229	若い人が参加しやすい、活用してみたいくなる雰囲気が必要である。	B
230	世代間の交流が出来る場があるとよい。	B
231	「まちのひろば」に集える人は問題なく、家庭にこもりがちな人達がいかに楽しんで来られるかを考える必要がある。	C
232	「まちのひろば」への参加者には偏りがある。これをどうするかが問題である。	C
233	「まちのひろば」はSDCで把握して一覧化するのか。	D
234	私達の地域で一人暮らしの高齢者が多く、話し相手はテレビだけという現実をどうしたらよいか。	D
235	地域の環境に合わせたまちのひろばが必要である。 （同趣旨ほか1件）	B
236	各地域においてコミュニティの再構築・強化を図り、支え合いの互助活動の組成を支援する場として「まちのひろば」が拠点となり、区内に多く組成されることが必要。「まちのひろば」を拠点に介護予防活動を行うことで、長野県御代田町の取組を参考に、介護認定率の低下、介護度の重度化を防止することに繋げる。	C
237	「まちのひろば」への支援強化が必要。人口1000人に1ヶ所必要という説があり、この説に基づくと、多摩区の場合、200ヶ所程度必要となる。公的な施設・自治会会館・町会館等の有効活用が望まれる。	C
238	SDCそのものというより、多摩区の登戸宿河原周辺についての、住民の希望の一つとして、宿河原小学校区の児童の自由に遊べるスペース（ボール遊びのできる公園など）が無いということで、それをどこかに設置してもらえたらという希望が、私の知っている範囲内でも6～7年以上前からある。	C
239	ほかの区では盛んにコミュニティカフェなどの取り組みをされているが、多摩区は「ケアカフェ」というすこし普段の生活からは離れたようなイメージを持たれているかもしれない。多摩区は、川崎の中でも自然も多く、クリエイティブな層も在住している割には働く場所や企業につながるイメージがそれほどない。地元の人が協力するようなスペースが出来ていくと嬉しい。多摩区にそういう場所ができるとうろんな人と交流も盛んになると思う。	B

(7) みんなに届く情報発信

No.	意見・質問要旨	区分
240	情報発信について、SNS を活用して、区民に届きやすいようにしてほしい。	B
241	広報の支援をしてほしい。SDC に使いやすいチラシギャラリー的な機能があるとよい。 (同趣旨ほか 1 件)	B
242	「団体登録」「回覧板」など、これまでのものはハードルが高い。	C
243	SNS 等は高齢者にも有効なのか。	D
244	サイト・ホームページは誰が作り、誰が運営するのか。	D
245	多くの区民に届くには、まちの情報誌はよい。	B
246	区のウェブサイト内に SDC の特設ページを作り、毎週更新するとよい。	C
247	多摩区に特化した情報ポータルサイトの構築・運営について説明があるとよい。	C
248	他地区の活動情報を共有できる仕組みがあるとよい。 (同趣旨ほか 1 件)	B
249	SDC が持っている情報を発信すべきである。	B
250	多摩区イベント情報を集中的に管理し発信するとよい。	C
251	多摩区の地域情報を発信する FM 局やラジオ局がほしい。	E
252	多摩区のまつりマップづくりをするのがよい。	C
253	情報発信の手法として誰でも理解できる内容としてほしい。 (同趣旨ほか 1 件)	B
254	地域課題の解決に向けて活動しようとする人に場所と情報発信の支援をすれば、とりあえずスタートできる。	B
255	バラバラな情報のとりまとめを進めた方がよい。 (同趣旨ほか 1 件)	B
256	今よりもっと情報発信して、幅広い世代に情報を届ける必要がある。 (同趣旨ほか 2 件)	B
257	多摩区を小田急線を境にして区域ごとに活動情報を知ることができるようにするとよい。	C
258	名称にこだわりすぎ(例: SDS と SDC)。住民に説明が難しい。	C
259	区役所は高くて目立つのでプロジェクションマッピングを行うことができないか。ドラえもんを使うことで外国人客を集めることができる。	C
260	多摩区まちづくり協議会の存在・活動を区民に広く知ってもらうことは長年の課題であった。今回の SDC 立ち上げに関しても、まちに住む多世代の方々が希望のシナリオの取組に参加しないと実現しないと考えられるため、SDC 自体やその取組、希望のシナリオを多くの区民に知ってもらえるよう、適切な広報・周知活動の仕組み作りをしっかりとやってほしい。	B
261	ほかの区に比べ、Facebook や SNS を利用した発信が少なく、市民活動している方々の発信を、意図的に探しに行かないと知れないことが多い。	C

(8) 多摩区内の人と人とを結ぶ

No.	意見・質問要旨	区分
262	おもしろいことをやる。おもしろくないと来ない。	A
263	イベント・カフェ・食堂は誰が企画し、誰が運営するのですか?	D
264	交流企画イベントが欲しい。 (同趣旨ほか 1 件)	B
265	地域間をつなぐコミュニティバスが必要である。 (同趣旨ほか 2 件)	E
266	商店街の活用、商店とのコミュニケーションがあるとよい。	C
267	たき火ができると人が集える。	C

268	今日みたいなフォーラムや現場視察の機会があるとよい。	C
269	核家族化が進む中、世代間交流の場づくりが必要である。 (同趣旨ほか4件)	B
270	駅前にみんなで集まれる場所があるとよい。	B
271	親子がいつでもいれる場所があるとよい。	B
272	高齢者が集える場所があるとよい。 (同趣旨ほか1件)	B
273	福祉団体のネットワークはあるが他のネットワークとの連携がない。	C
274	創造、アートと他分野(福祉、エコ等)とのコラボで、なかなかつながらない人をつなぐ場をつくとよい。	B
275	活動の発表の場があるとよい。	C
276	通勤・通学など地域に住んでいない人をどう巻き込むのか。	D
277	他分野の活動・人との「ナナメ」の交流で生まれる活動がほしい。	C
278	産・官・学・民とのつながりの構築が必要。 (同趣旨ほか1件)	B
279	子ども食堂等のイベントなど、今あるイベントを知ってもらおうとよい。	C
280	貸本配達ネットワークや、読み聞かせ派遣などを行うとよい。	C

(9) 多摩区の地域特性を活かした取組

No.	意見・質問要旨	区分
281	向ヶ丘遊園跡地に子ども達からシニアまでのあそび場を運営する。 (同趣旨ほか2件)	C
282	生田緑地、向ヶ丘遊園跡地、藤子・F・不二雄ミュージアム、三大学を活用するとよい。 (同趣旨ほか3件)	B
283	生田緑地から駅までの人力車・馬車を運行する。	C
284	岡本太郎美術館を中心としたアートイベント(過去にもあるが)を開催するとよい。	C
285	多摩区は地域的に若い人達が多く住んで居る(若者が活躍できる観点)。	B
286	大学生の街コンを開催するとよい。	C
287	明治大学・平和博物館と連携できないか。 (同趣旨ほか1件)	C
288	地域資源として「登戸の渡し」を活用するのがよい。	C
289	多摩川を遊びながらきれいにし、愛する心を育む。	C
290	多摩の自然特性を結びつける取組が欲しい。各箇所が独立しすぎている。	B
291	川崎市、多摩区のオリジナリティが重要である。	B
292	地域特性を活かすための資源をどのように洗い出すのか。	D
293	地域ブランディングが必要である。	C
294	市民館・図書館・美術館との連携で各々の活動への協力を行う。	C
295	多摩区おもてなし隊を結成するとよい。	C
296	全国発信の多摩区観光ツアーを開催するとよい。	C
297	有名キャラクターとコラボしたイベント開催PRなどを行うとよい。	C
298	マルシェなどによる農作物の販売を行うとよい。	C
299	福祉教育や体験を行うとよい。	C
300	災害時井戸水を供給する家を活用できないか。	C

(10) (1) ~ (9) 以外に関する御意見

No.	意見・質問要旨	区分
301	いろいろな活動のアイデアが書かれているが、どの様に優先順位を付けて取り組むのか。	D
302	広く参加者を集める手段をもう少し考えたほうがよい。	C
303	大森まちづくりカフェ設立までの苦労話も少々お聞きしたかった。	C
304	ゲストスピーチの目的がわかりづらかった。	C
305	総花的よりしぼってスモールスタートで。	B
306	活動と改善効果のみえる化が欲しい（効果、金額等）。	B
307	オープンな議論や運営にすべきである。	B
308	希望のシナリオの実現性は。資金はあるのか。	D
309	コミュニティビジネスはどうか。	D
310	最終的に、市民がSDCを運営すると聞いたが、全てボランティアで運営するのか。	D
311	自治会、子ども会、商店会それぞれの連携はどうするのか。SDCの課題ではないか。	D
312	交通不便地区の課題解決（交通インフラの整備等）に取り組んでほしい。	C
313	駐車場や安く泊められる所。双子、3つ子が増えている。	E
314	生田中学創作活動センターを活用するのがよい。	C
315	多摩区での働く場所を開拓してほしい。	C
316	「希望のシナリオ」の課題と多摩区の地域で抱える課題を層別して優先順位を付けてほしい。地域の現実の課題解決なくして「希望のシナリオ」の実現は不可能	C
317	住みやすい地域づくりのためには、地域活動テーマと行政施策の連動が必要。地域課題解決は地域活動が原点である。行政の施策と連動した一貫性のある課題解決活動が必要であるが、現状は、必ずしも行政の施策と地域の課題改善活動と連動しているとは言えない。市民活動への関心は、低調である。	C
318	SDCの基本的機能と具体的な取組の中に障害者について記載されていない。	C

「5.開設場所」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
319	せきれい跡地の広さは適切なのか。 (同趣旨ほか2件)	D
320	せきれい跡地でもよい。ただし交通の便が悪い。 (同趣旨ほか2件)	C
321	せきれい跡地はせまいが便利である。	A
322	最終的にはより広い場所、オープンな形がよい。 (同趣旨ほか3件)	A
323	人の動線、人のあつまる場所がよい。	A
324	将来的には生田上水場跡地なども含めて広く候補地を検討すべきである。	C
325	市住宅公社の大きな空室（事故住宅）も考えられる。	C
326	駅に近い方がよい。 (同趣旨ほか2件)	B
327	廃校など遊休施設を活用できないか。 (同趣旨ほか1件)	C
328	商店街の中がよい。	C
329	生田緑地の一部を活用できないか。	C
330	地域で興味ある人に呼びかけてみてはどうか。	C

331	SDCは1ヶ所にとどめない。 (同趣旨ほか1件)	C
332	サテライトがあってもよいのではないか。 (同趣旨ほか1件)	C
333	事務所は1つでも活動の場は複数あってもよいのではないか。既存のこ文、いこいの家など分室をつくる。	C
334	場所はなくてよい。毎回違ってよい。	C
335	生田中学創作活動センターをもっと活用したい。 (同趣旨ほか1件)	C
336	横浜市都筑区の北山田中学校のコミュニティーセンターをモデルにするとよい。	C
337	区画整理の土地にSDCを設置することも考えられるのではないかと。	C
338	休憩できる場所がほしい。	C
339	「せきれい」の後のスペースか、アトリウムの一部に、自由に老若男女が憩えるスペースを作り、たまにはイベントなども行い、気軽に声を掛け合える関係を作ったらよい	C

「6.運営についての考え方」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
340	中・高・大学生にどのように関わってもらえるのか。 (同趣旨ほか2件)	D
341	人が集まるためにどうしたらよいか。	D
342	不景気の中、退職者をどうひきつけて活動してもらえうかがカギだと思う。	C
343	コミュニティ横断する人が必要である。	B
344	運営団体としては事業ごとにその分野に詳しく、志のある方が理事として推進すべきである。	C
345	「市民主体」の市民をどうやって選ぶのか。 (同趣旨ほか3件)	D
346	若者、子育て、シニア世代、ハンディキャップのある方など幅広い方で運営するとよい。 (同趣旨ほか1件)	C
347	みんながファシリテーターになる研修システムが必要である。	C
348	分野ごとの協力が必要である。	A
349	検討会のメンバーが必要な能力も顧みず、運営をいきなりしたいというのはおかしい。	C
350	SDCの検討会は年齢層高い。若い人が入らなければ分断する。	C
351	これまでの市民活動の蓄積や成果は尊重しつつも、特定の人たちが優遇されるような形は避けるべきだと思う。	A
352	運営方法として、ヒト・モノ・カネを稼いでくる部門と分配を決める部門をキッチリ分ける必要がある(税金のお手盛りにならないように)。	C
353	分配を決めるのは運営スタッフでなく、第三者にまかせせる必要がある。また、規則をつくる必要がある。	C
354	SDCに関わる人達が少しずつでも収入を得られる事業展開を。	C
355	きちりとした経営計画があるから小さな出発になる。 (同趣旨ほか1件)	A
356	人、モノ、金がないと団体が活動できない。良いものも続かない。 (同趣旨ほか7件)	C
357	フリーペーパーの広告収入を得られないか。	C
358	休眠預金活用の必要性はどうか。	D
359	地域通貨を活用できないか。	D
360	行政やNPO法人など既存の団体の一部として運営する。	C
361	運営スタッフは、はじめは無給でも有給にしていけないと続かない。	C
362	運営組織の機能がはっきりしていないのに、その形態(NPOとか)が議論されるのはおかしい。	C

363	運営組織のほかにもらう側は賛助会員などになっていただき、その意見を反映するとよい。	C
364	いずれ法人化を目指すとしてもまずは「柔軟さ」を第一に考える必要がある。	B
365	自主・自立の市民主体の運営の定義（ゴール）が少しあいまいに感じる。 （同趣旨ほか2件）	C
366	いつ止めるか、サンセット方式で区切りをつくっておく必要がある。	A
367	開設場所にはスタッフとして誰がいるのか。区役所職員はどのような立ち位置なのか。	D
368	空き家、空き地利用にはオーナーと利用者間の行政のコーディネートが必要である。	C
369	各団体の連携があると、お互いに活動が広がるので、連携がもてるようにするとよい。 （同趣旨ほか1件）	B
370	SDCは情報の取りまとめに特化するとよい。	C
371	集まらなくてもディスカス、意思決定できるシステム（MURALボード等（ネット会議））を設けるとよい。	C
372	信頼できるリーダーが皆の意見を拾いあげる運営が望ましい。 （同趣旨ほか1件）	C
373	時間軸を入れた事業運営が必要である。	A
374	行政施策をリードする活動をしてほしい。	C
375	多摩区内で実績のある団体に支援してほしい。	C
376	一部に偏らないように運営はコンソーシアムで。	B
377	インターネットやSNSで見える化する活動を行ってほしい。	A
378	会話を大切にしながら熟議を重ねてよりよいものを練り上げていくとよい。 （同趣旨ほか1件）	C
379	運営規則の作成が必要である。	C
380	運営する箱が必要である。	B
381	SDCが多摩区に1つだとしたら、区民みんなに届くためにしっかりとした組織にならないといけない。（運営費予算必要）	B
382	運営主体は企業からの寄付金や会員管理も考慮し、法人格で運営する方がよい。	C
383	独自予算、責任と権限、交渉力が必要である。	C
384	新たなNPO法人を設立し、SDCの運営にあたるのが適切。既存の団体では、マンパワーの制約もあり、兼務ではSDCの目的を達成することは難しいことから、SDCの活動に特化した組織が望まれる。また、NPOの認証には市が関わることになり、NPOの事業活動及び決算状況について、市としてもその活動内容の把握が可能となる。	C
385	多摩区まちづくり協議会の課題として、委員やメンバー全員が完全なボランティアだったことから、活動の展開や広がりに限界があったことが課題と考える。このため、SDCについては、効果的で持続可能な取組を行うためにスタッフは専任であるべきである。また、ボランティアをお願いする場合にも有償であることが望ましい。	C
386	SDCが区民から信頼されるためには、中立的な立場であることや公益性があること、また、決定のプロセスや会計などの透明性があることが必要である。このため、定期的に区民からチェックや評価を受ける仕組みを作してほしい。	A
387	毎年開催される「まちカツ！」では、参加団体の発表と交流の他に、多摩区まちづくり自身を広く区民や区内の市民活動団体に知ってもらうため、1年間の活動を発表した。このため、SDCも広く区民や区内の市民活動団体に知ってもらうために毎年「まちカツ！」のようなイベントを開催することが必要であると考えます。	A
388	活動体制の見直しについて。行政（組織）と市民（個人）の中間機能として町会・自治会（地域機能）を加えてほしい。地道に活動する「町会・自治会組織」ともっと連携しつつ地域の課題に対する活動の環を広げる必要がある。町内会には優秀な人材が多い。	C
389	委員の人選について。組織推薦、一般公募者等頭数は充足されても、具体的な活動までつながる人は少ない。また、考え方の幅が広く異なり、結論が出ない。地域の実情に詳しい実務家が少ない。また、女性の参画を強化してほしい。	C
390	活動テーマの絞り込み、委員会一任では困る。行政が参画して、ある程度優先順位を決めてほしい。テーマ別の解決活動と地域に定着する仕組み作り。	C
391	活動資金について、地域活動助成金の交付形態をとる。具体的なテーマに対して、参加者を公募する。活動助成金を交付する。「かわさき市民活動センター」に集中している助成金を、地域分散型にして多摩区のボランティア活動助成金とする。（地域活動のための資金支援）	C
392	本当に市民主導で、収支も成り立つような自立した組織を目指すのであれば、ボランティア活動している様な人材を、無責任な立場で集めても意味はなく、ビジネスセンスのある起業経験のある様な人材が、理事として自らの	C

	責任において事業計画を立案する必要があるだろう。例えば、起業アイデア／ビジネスプランのコンペを開いて、優秀な企画書を作った人に団体立ち上げを担って貰う、等の方法をとるしかないのではないだろうか。	
393	自立した団体の設立を目指すのであれば、1つの団体にてすべての機能を実現するのは難しいだろう。いきなり、独立採算の複数の事業本部制を導入する大企業をゼロから起業する様なイメージだ。組織運営が複雑となるため、まずは単独事業から始めて事業内容を増やしていくか、別々の団体として並行して立ち上げるかを検討すべきだろう。検討会にて指定管理者制度に基づいて運営されているものを事例として扱っている人がいたが、自立した団体設立という観点では参考にならないのだが、その違いが分かっているのかどうかも怪しい。大森まちづくりカフェのご講演を聞いても、最初からビジネスを強く意識して団体を立ち上げて活動していかないと収支を成り立たせるのは難しいことが分かる。	C
394	「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」には、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の制度が重要な役割を果たすので、多摩区において制度化して設置し、活用するようにお願いしたい。	C
395	SDCを持続するためには、人材は多いほどいいかもしれないが、一般の人たちの社会の役に立ちたいという認識が、もっと強くなっていかないと、人材の確保は、難しいかもしれないと思う面もある。いろいろなことに関わり、少しずつ地域のことやいろいろな人の事情を知り、地域全体でいい方向に進んでいけるような関係を作っている、と思える人が圧倒的に増えれば、人材の確保は、今よりはできやすくなるのではと思う。人々の「最低限、自分の家の中が無事であればそれでいいのだ」という意識を「自分の家のことは大事だが、少しのお手伝いで誰かを助けてあげられるなら手伝ってもいいですよ」という風に変えていけると、社会は変わっていくかもしれないと思う。その意識を変えていける方法も考えられたらいいと思う。一般の方々は高齢化が急速に進んでいるという意識はあるのか。そのあたりも人々の、社会の役に立てるようになりたいという意識を変えていく材料になるかもしれないと思うが。	C

「7.今後の検討の進め方」に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
396	「区民が自主的につくっていく」という視点が大切。多くの区民が関われるように進めるべきである。	A
397	最終目標（ムーンショット）がパンフの内容ならそこまでの中期計画（10年？）	C
398	いつまでに何をというアウトプットイメージはどうなっているのか。	D
399	「ありたい姿」を多くの人が共有し、それを実現するための道筋を描く必要がある。	A
400	施策の優先順位づけはどうなっているか。	D
401	多摩区の具体的な課題、ニーズ調査のためにフォーラムや現場視察を行う必要がある。	C
402	これから作っていくというよりも、すでに活動しているものを集約していくということでもいいと思う。	C
403	まずはやってみて、小さな積み重ねから大きなパワーにつなげていく。1つモデル事業を決めて、検討する中からノウハウを蓄積するのがよい。	A
404	利害関係を考えずにまずは話し合いが必要である。 (同趣旨ほか1件)	A
405	まちにどんなものがあったらよいか、自分のまちの好きなどころなど、学校と協力してもらってアンケートを行い、若者、子どもの意見を聞くとうい。	C
406	ゼロからではなく、既にある取組や成果の上にデザインしていく発想が必要である。 (同趣旨ほか1件)	C
407	既存にあるシステム、仕組みとの関係がわかると嬉しい（例：別物なのか、補充するものか）。	C
408	地域特性の「切り口（＝資源）」は何か。地域資源の洗い出しと把握から構えることが大切である。	C
409	コーディネート機能と、そうした人材育成のための機会が必要だと思う。	A
410	まちづくりに関心のある住民にSDCの考え方、基本方針をどれだけ理解を広げるかが重要かと考える。	A
411	地域包括ケアシステムの一環としてSDCと社協、地域振興課との関係はどうなっているか。	D
412	自治会・町内会への支援機能はSDCにどのように持つのか。	D
413	まちづくり協議会がなくなってSDCができるかと聞いたが、移行はどうなるのか。	D
414	SDCの年間予算はどの程度か。活動内容、スタッフ体制などに影響する。	D
415	区のサポートは中長期的に必要な不可欠である。	C
416	SDCと行政の距離感は「緊張感」が必要である。	C

417	特に多摩区では、「みんなで考えよう」感がなく、だれか代表者が集まって会議をして決まっていく感じが非常に強く、SDCの開設に関して、もっと広くいろんな人に問いかけることがあってもよいのではないか。このままいくと、おそらく住んでいる住民からは、「知らないうちにSDCというものが出来上がった」→「自分とは関係ない」にならないようにしてほしいと思う。	C
418	運営について考える上で、① 組織に求められる機能、② 組織のあり方、③ 必要とされる運営スタッフの能力を、まず検討すべきであると思われます。順番はあくまで①が先で、組織がどうあるべきかは、求められる機能により異なってくるからです。機能がはっきりしないうちに、NPO、公益財団法人、任意団体とか、コンソーシアムがいいとかは決められません。ですから、①組織に求められる機能をまず確定させて、次に②と③が決まってくることになります。そして、③必要とされる運営スタッフの能力が決まってから、初めて誰にやらせるかということになります。	C

その他コミュニティ施策に関すること

No.	意見・質問要旨	区分
419	各中学校単位でコミュニティーセンターを創る。	E
420	多摩区にはSDCより前に行政がやらなければならないことがある。川崎市のコミュニティ施策の基本的考え方があるが、頭の中で考えた空想のイメージばかりで、現実の川崎市内の市民活動、地域活動の現状や住民の願いや中高年市民の地域課題を反映していないのではないかと。希望のシナリオに、人が集まり・学ぶ場である住民が最も身近に利用できる公民館施設（市民館）や学校施設の言及もなく、最も身近な居場所である公共コミュニティ施設の役割を無視し落としているのは残念である。	C
421	川崎市全体のコミュニティ施策の新構想・計画を考えるならば、これまで戦後50年以上も地域で日常生活に即して、住民が自発的に実施してきたコミュニティ活動、学習活動、住民自治活動の活動実績、歴史をまずどう理解して評価するのか、否定するのか議論し新たな施策のデッサン議論を始めなければならないのが順序と思うが、市コミュニティ施策の学識・研究者の議論を見ても、生涯学習施策の検証やコミュニティ施策の評価は全く行われていないように見えない。	E
422	多摩区の地域で市民が困っている地域課題とは第1に地域活動をするにも活動場所が身近にないという場の不足の問題が共通して存在するにも関わらず、川崎市のコミュニティ行政の対応は地域住民の要望を無視するか教育行政の問題に矮小化しているようで、市民の自己責任で民間の場所をさがしないとタカをくくっているようだ。生田出張所建替え時に分館併設という好機をつぶしてしまった市であったのが残念。予算がない金がないなどといわずに住民の要望している身近で、使いやすい生きがいの持てる居場所、生涯学習、コミュニティ機能のある公共施設を土地を探してでも旧出張所単位に学びのできる場所を確保すべきではないか。	E

6 これまでの検討経過に関するホームページ

多摩区ホームページ「参加と協働によるまちづくりの新たなしくみ」の検討

<http://www.city.kawasaki.jp/tama/page/0000104793.html>

川崎市ホームページ「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」について

<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/38-1-16-1-0-0-0-0-0-0.html>